

I. 事業報告

1. 令和6年度社会福祉法人北摂杉の子会年度方針に基づく、法人事業所の主な事業目標

(1) 法人事業部

情報発信の充実

- ①ICT・SNSを活用して、法人内外に向けた情報発信を充実させる。
- ②法人内に向けて、事業所の取り組みを紹介するなど事業所間コミュニケーションのきっかけとなるような情報を提供していく。
- ③法人外に向けて、法人の理念や取り組み内容を知ってもらえる情報を発信していく。

【成果】

- ①SNSガイドライン案を作成した。
- ②法人内広報誌「すぎのこねくと」を発刊した。
- ③法人ホームページの改定に向けた情報収集を行った。

(2) 地域生活支援部

- ①中核的人材配置加算をとることで、内部の支援体制を固め、地域や他法人の人材育成に貢献する。
- ②高齢化GHの整備を行ない、萩の杜で高齢化されたご利用者の地域移行を進めることで、高齢化や医療に対応した仕組みをつくとともに、萩の杜の環境改善につなげる。

【成果】

- ①中核的人材として辻本を配置し、収入を得ることでスタッフ数の増員をはかった。また、“とれとれ研修”を外部事業所にも展開することを行い法人内外の職員の育成に貢献している。
- ②萩の杜 高齢化対応グループホームを建設中であり、2025年5月の開設に向けた支援の実施準備を進めているところである。また、萩の杜の環境改善について、利用者のグルーピングや支援体制等の検討も進めている。

(3) 日中活動支援部

- ①強度行動障害を有するご利用者への中心的な役割を担う「中核的人材」の育成を進める。
- ②部署間での情報共有および記録類の統一を図り、専門性の向上や業務効率化を進める。
- ③経営戦略企画室と連携し、工賃向上の取り組みを進める。
- ④高槻レモンの取り組みを継続する。

【成果】

- ①ジョブサイトひむろ、ふれいす Be それぞれに中核的人材を配置し、加算の取得をおこなった。
- ②ジョブサイトひむろで記録の電子化のトライアルをおこなった。引き続き検討を重ね、可能であれば日中活動支援部としても導入を進めていく。
- ③具体的な進展はなかった。
- ④地域の方も協力を得ながら、レモンの生育を継続している。R6年度は約50個の果実を収穫した。次年度以降さらなる収穫量が期待できる。苗木の育成や収穫から加工販売を日中活動支援部のご利用者の活動につながるよう検討していく。

(4) 就労支援部

- ①地域連携での訪問や広報に努め、新規利用の契約増加と収支改善を目指す。
- ②利用定員の縮小で運営効率を高め、ジョブコーチ助成金や企業コンサル等による福祉以外の収入増加を目指す。
- ③令和7年10月スタートの就労選択支援事業の実施に向け、アセスメントの標準化とツール開発等の準備を進める。
- ④LaLachocolatの安定的な運営と販路の拡大、外販の定期実施、イベント実施など地域と

の接点を増やしていく。

【成果】

- ①昨年度に続き、令和6年度も年間で100件の関係機関に訪問した。短期的な成果には繋がらなかったものの、徐々に関係機関からの新規利用者の紹介が増え、令和6年3月末には7名の方が新年度からの利用契約となった。
- ②ジョブコーチ助成金は年間で前年比2倍の200万円の収入となった。また、企業コンサルを行う雇用相談援助助成金を大阪労働局から認定を受け、令和6年1月より2件の助成金活動を実施中（120万円の収入見込み）。
- ③就労選択支援の実施に向けて、モデル事業に携わるなかで情報収集に努め、アセスメント標準化に向けた会議等を開催した。
- ④店舗運営に関しては、材料費の高騰等により支出の増加が見られ、収支に影響は出たものの、店舗の売上やステップの収入に関しては増加させることができた。商品を掲載いただいているサイトでの取り扱い商品の追加していただくことで売り上げアップに繋がったり、外販の機会を増やすことにご利用者にも販売に携わっていただく機会を増やすことができた。

(5) 児童発達支援部

【will・Link】

- ①令和7年度以降の各市町村との委託事業の継続や統合を見据えて、市町村協議を重ね、今後の運営方法の方向性を検討する。
- ②個別専門療育、機関支援双方に必要なアセスメント力、保護者支援力、専門力を人材育成の柱とし、必要な研修、OJTを充足させる。

【成果】

- ①茨木市とは、公立園の跡地利用に向け、協議を進めていたが、事業契約には至らず、引き続き協議を重ねる。北河内圏域において、児童発達支援センターとの連携により、委託事業である個別支援療育においては、令和5年度50名→令和6年度59名の増員を図ることが出来た。
- ②5月～3月まで計11回職員研修を実施した。また定例のスタッフ会議の議題に、ケース検討を入れ、特性理解を図った。訪問看護ステーション、アクトおおさかと合同研修を計3回実施し、療育以外のケースについて検討する機会を設けた。

【豊中市立児童発達支援センター通所部門】

- ①令和5年度末まで豊中市直営で実施されていた児童発達支援センターの各通所事業を引き継ぎ、事業実施するための運営及び人材育成のあり方を検討する。
- ②豊中市と事業実施を通して連携をさらに積み重ね、事業内容のブラッシュアップを図る。

【成果】

- ①②児童発達支援センターの親子通所事業 2事業（肢体不自由児親子通所・2歳児親子通所）を豊中市より引き継ぎ事業実施した。また、新規事業（小学1～2年生を対象とした事業、高校生年代対象の事業）についても、市と連携し協議をしながら事業開始した。市と同じ建物で業務実施していることから、以前よりも密に連携をとることができている。人材育成については、各事業ごとにさまざまな情報を集め受講をしている。特に、低年齢児への支援についてさらなるスキルアップが必要と考えている。

(6) アクトおおさか

- ①令和8年度までの継続が決定した大阪府発達障がい者地域支援力向上事業について、単年度ではなく各市町村に3年連続でコンサルテーションできる枠組みになっている。まずはQ-SACCSを活用した地域分析を一律で行い、地域アセスメントに基づいた各市町村のニーズや状況により即した地域支援体制の向上を目指す。
- ②家族支援の充実に向けたペアレント・メンター事業の更なる拡充のため、大阪府や家族会等と協議しながら、事業の枠組みや在り方を検討していく。

【成果】

- ①アクトおおさかに配置している地域支援マネージャーを5市に派遣し、地域課題の整理、人材育成やネットワーク構築についてのコンサルテーションを実施した。本事業で課題に対する取り組みの実施や助言を得ることできたと思うかという質問に対して、「とても思う」が74%、「やや思う」が26%であった。本事業を通して各市のニーズや課題に応じた助言と情報提供が行えていると言える。
- ②依頼件数は増加しておりリピート率も高い。より多くの依頼に応えるために、ある条件を満たした活動は依頼元と派遣メンターの2者間で打ち合わせを実施する等、令和7年度から新しい枠組みで事業を開始することになった。事前説明の徹底や打ち合わせのマニュアル作成、記録用紙の改訂などの準備を行った。

(7) 地域医療支援部

- ①虐待や強行等が背景にあり福祉サービスに繋がれない不登校児やひきこもり状態の方の訪問看護利用が増えている。ご本人、ご家族への継続的な支援及び環境を整えることで家庭での生活を維持、改善していく。また、医療機関、行政、学校、福祉機関等と情報を共有し連携を図っていく。
- ②地域での発達障害特化型訪問看護の認知度を上げていく。訪問看護の認知度はまだまだ低く、家庭で周囲とのつながりのない子育てをされていて困っている人も多い。また、就学してから学校での集団生活、学習に躓きをもっている方や、仕事と生活のバランスを崩してしまっている方等様々な地域生活に困難を抱えている方々に情報を届けていく。
- ③診療報酬、介護報酬改定に対応する。

【成果】

- ①病院や相談支援機関から紹介のあった虐待等で保護歴のある要対協の児童や強度行動障害の成人を積極的に受けてきた。ご本人だけでなくご家族も障害があり、ご本人やご家族が施設入所になったり保護入院になった事例もあるが、地域生活を維持できている事例もある。
- ②パンフレットの作成や地域への積極的な広報は行うことができなかった。ホームページをみての問い合わせや、病院や相談支援機関等からの紹介は増えており、認知度は上がってきている。
- ③ベースアップ加算に対応し収入増に繋げることができた。DX加算に対応すべく、PC等の機器の投入や環境整備を行った。来年度はDX加算にも対応していきたい。

(8) 人材確保育成支援室

- ①キャリアパスに応じた新しい人事考課制度の検討を始める。
- ②キャリアパスに応じた階層別研修を明文化し実施していく。
- ③メンタルヘルス対策の一環としてオンラインカウンセリングの導入を進める。

【成果】

- ①キャリアパスプロジェクトにてキャリアパスの運用方法について検討をおこなったが、法人全体の取り組みまでには至らなかった。人事考課制度に関しても具体的な取り組みを進めることはできなかった。
- ②研修企画運営プロジェクトにて、1～3年目、4年目～主任、管理職の三階層の研修を企画し、令和7年2月法人全体研修にて階層別研修を実施した。これとは別に新卒職員を対象とした新人研修を年8回開催した。
- ③オンラインカウンセリングの導入について検討を進めてきたが、まずは大阪民間社会福祉事業従事者共済会が実施しているカウンセリングサービスを法人内で周知することにした。

(9) 医療連携推進室

- ①令和5年度もコロナの変異株やインフルエンザ等感染症の打撃を受けた。推進室としては令和6年度から全事業所で義務化される感染症対策を徹底する
- ②同じく令和5年度は能登地震があり災害対策及びBCPの必要性を改めて認識させられ

た。今年度から全事業所に義務化される災害及び感染症に対するBCPを確実に作成し備えていく。

【成果】

- ①感染症対策委員を設置し、年に3回委員会を開催することができた。法人研修で感染症対策研修を行った。
- ②各事業所でBCPの作成を行った。法人全体のBCPの整備・作成に取りかかることができた。

(10) 権利擁護・虐待防止委員会

- ①制度改定により、ご利用者の「意思確認」が入ってくることから、よりご利用者の意思を尊重した暮らし、活動、余暇等の充実に努める。
- ②身体拘束適正化についての意識を高め、特に高齢化・重度化への対応について、身体拘束の適正化を図っていく。

【成果】

- ①委員会にて、令和6年度からの法改正について、「意思確認」「意思決定」「減算対象の変更」等に関する研修を実施した。その研修の内容を各事業所でも実施していただいた。従来より表出コミュニケーション支援に重点をおいた支援を行っているが、重い障害のあるご利用者については、「個別支援会議や面談に、ご本人も同席して意思確認を行う」ということは実施出来ていなかったこともあり、どのように取り組んでいくかについてのガイドライン等を検討中である。
- ②身体拘束適正化の指針を作成しているものの、説明や同意書に関する部分が事業所ではばらつきがあったため、ガイドラインを検討中である。特に高齢化重度化の状態になることで、車いす用ベルトの着用や、ベッド柵等も身体拘束となるため指針の整備やガイドラインにつなげたい。

(11) 経営戦略企画室

- ①法人シンボルマークの活用を進め、法人内外の浸透を目指す。
- ②求人サイトを広報媒体として活用できるよう、コンテンツの充実とアクセス数の増加を目指す。
- ③新規業を検討するために日中活動支援部との合同プロジェクトチームを発足させ、「地域とのつながり」「新たな仕事創出」「障がいの程度に関係なく社会参加する」などをテーマに取り組みを進める。

【成果】

- ①シンボルマークについて、機関誌、クリアファイル、マグネット、ステッカーなどに活用した。また、新しく建て替えたジョブサイトひむろの入り口付近の看板にもシンボルマークを使用した。
- ②スタッフの声を5名の方（萩の杜、レジデンスなさはら、訪問看護、児童デイサービスセンターan、ジョブサイトよど）にご協力いただき、サイトの充実を図った。
- ③農福連携や工賃向上、駅前の土地活用などをテーマに日中活動支援部と複数回にわたって意見交換を行った。ただ、具体的な進展には繋がっておらず、次年度以降も継続的に取り組んでいきたい。

2. 法人事業部

(1) 令和6年度重要実施事項

- ①杉の子マインドの浸透
法人内研修の実施をサポートし、法人理念の浸透を推進していく。
- ②地域と共に
ジョブサイトひむろ第2期工事をサポートする。
- ③suginokobrandの確立
SNSの活用・ホームページの改定により法人外に向けた情報発信を充実させる。
- ④多様な働き方

人事のあり方について議論し、適材適所の職員配置を推進する。

⑤みんなで作る法人

勤怠システム及び給与計算ソフトの移行を適切に完了させる。

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

オンライン研修の設定・撮影機材の準備・動画撮影、研修実施後の動画編集を行った。

②地域と共に

ジョブサイトひむろ第2期工事が完了した。行政への提出書類作成や、建設資金借り入れ手続きをすることでサポートした。

③suginokobrandの確立

SNSガイドライン案を作成し、ホームページ改定については情報収集を行った。

④多様な働き方

人事のあり方について議論し、適材適所の職員配置を推進する。

⑤みんなで作る法人

勤怠システム、全事業所で新システムを使用できる環境へ移行した。給与計算ソフトも新システムへ移行し、オンラインで給与明細を確認できるようにする等の改善を図った。

3. 萩の杜

(1) 令和6年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

②地域と共に

③suginokobrandの確立

④多様な働き方

⑤みんなで作る法人

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

i)外部や内部のスーパーバイザーを活用し、評価キットを使用しての利用者のアセスメントや実践報告会、困難ケース支援に関するコンサルテーションを実施した。

ii)業務の振り返りチェックとクレドの振り返りをおこない、リスクマネジメント委員会等で結果の振り返りをおこなった。

iii)利用者の高齢化に伴う活動グループ再編について協議した。また、ダウン症の高齢化について、他法人入所施設や法人内グループホームの見学と意見交換をおこなうとともに、地域生活支援部合同でダウン症に関する合同研修を実施した。

②地域と共に

i)事業所内での感染症集団感染防止に努めた。

ii)医療連携推進室会議において、災害等に関するBCP(事業継続計画)簡易版を作成して職員間に周知した。また、感染症拡大対策強化のための研修を実施した。

iii)関係機関の施設見学や実習等の受け入れを積極的に進め、障がい理解等の啓発に務めた。

③suginokobrandの確立

i)高齢化対応グループホーム「レジデンスはぎのもり」開設に向けて、建物建設や人材確保等の準備を進めた。

ii)生活介護事業における活動充実については、人材確保が引き続きの課題である。

④多様な働き方

i)生活支援員個々の行動計画を作成し、主任との定期的な振り返りを実施した。

ii)新入職員研修の企画実施や、リスクマネジメント委員会内でのミニケースカンファレンスを実施した。

⑤みんなで作る法人

i)家族会定例会や安全対策委員会、通所部懇談会にて事業所の運営状況について情報共有を図り、事業所の密室化防止に努めた。

- ii) 正職員、嘱託職員が集まる全体会議にて、事業所の収支確認をおこない、固定費削減や収入確保に向けた議論をおこなった。また、加算取得に向けて行動援護従事者養成研修受講を計画的におこなった。10月に、高槻市の監査、運営指導があり、支援内容については一定評価を受けたが、一部過誤請求事案もあった。

4. 短期入所（ふれいす Be）

(1) 令和6年度重要実施事項

① 杉の子マインドの浸透

- i) ご利用者の権利擁護に基づき、説明のできる支援を継続して行なう。
- ii) 意思表出支援の内部研修を行ない、ご利用者の意思表出支援を進めていく。

② 地域と共に

- i) 地域の短期入所、日中一時支援事業所と相談支援事業との連携を図り、運営の課題やケースの共有を行ない、課題解決に向けて取り組んでいく。
- ii) 重症心身障害の方の短期入所、日中一時支援の適切な運営方法を検討する。

③ suginokobrand の確立

- i) 法人内の短期入所、日中一時事業の在り方を検討して、運営方法、人材確保と育成の検討を行なう。

④ 多様な働き方

- i) 職員の業務の振り返りを定期的に行なう。
- ii) 職員のストレスチェックを実施する。

⑤ みんなで作る法人

- i) ChatWork 等を利用して、情報が伝わりやすい環境を整える。

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

① 杉の子マインドの浸透

- i) eラーニングを使用して、ご利用者の権利擁護について研修を行なう。
- ii) 10月に Be 通所と共に業務の振り返りを行い、虐待防止の研修を行う。

② 地域と共に

- i) ケース会議等を通じて情報共有を行ない、他事業所の見学も受け入れた。
- ii) 職員体制、支援や送迎についての検討を行ったが、再開には至らなかった。

③ suginokobrand の確立

- i) 短期入所事業の運営について検討を行ない、次年度レジデンス萩の杜開設に合わせて、短期入所のあり方を法人全体での検討を行なう。

④ 多様な働き方

- i) 内部研修でのご利用者の権利擁護の研修を行ない、通所と合同で内部研修を行い、業務の振り返りを行なった。

⑤ みんなで作る法人

- i) 夜勤や早出職員との情報共有において、ChatWork を利用して、タイムラグのない情報共有を行なった。夜勤、早出職員の新規採用に合わせて業務の整理を行なった。

5. ジョブサイトひむろ

(1) 令和6年度重要実施事項

① 杉の子マインドの浸透

② 地域と共に

③ suginokobrand の確立

④ 多様な働き方

⑤ みんなで作る法人

(2) 令和6年度の取り組み内容

① 杉の子マインドの浸透

- i) ジョブサイトひむろ新築2期工事を6月に着工し、年内完工に向け移行準備を始めた。

- ii) ご利用者の高齢化、重度化を見据えた支援のシフトチェンジを図った。
 - iii) ご利用者の意思決定、表出コミュニケーション支援を推進した。
 - iv) 権利擁護虐待防止計画の推進と進捗管理を行った。
 - v) ご家族、関係機関とのパートナーシップを強化した。
- ②地域と共に
- i) 事業所からの発信や活動を通じ、地域社会とのつながりを深める
 - ii) 感染症・非常災害発生の際の業務継続計画（BCP）をガイドラインに沿って実行した。
- ③suginokobrand の確立
- i) 事業所としての suginokobrand のブランディングを進めた・
 - ii) アートや畑を通じた活動をより発展させた。
- ④多様な働き方
- i) 事業所内外の交流や研修を通じ、支援の統一と質の向上につなげた。
 - ii) 新入職員に対するメンター制度は継続したが、対象者を拡大しての実施はできなかった。
 - iii) 誰もが働きやすい、必要とされる職場環境づくりに努めた。
- ⑤みんなで作る法人
- i) 事業所内で収支の進捗確認を毎月実施した。
 - ii) 重度障がい者支援加算を新たに 8 名分算定した。
 - iii) 令和 6 年度報酬改定、2 期工事完工に伴う新規加算算定の準備、検討を始めた。
- (3) 評価
- ①杉の子マインドの浸透
- ・ジョブサイトひむろ新築第 2 期工事については、12 月末に完工、1 月より定員 60 名に変更し、運営を開始している。工事期間中はリスク管理の徹底に努め、大きな事故につながることはなかった。
 - ・特定の症状があるご利用者に対し、DSQIID を実施し評価を行った。
 - ・4 月の利用者健診において、昨年に続き便潜血検査、甲状腺機能検査、腫瘍マーカーを希望者に対しオプションで実施した。
 - ・新入職者を含め 3 名の職員が PECS レベル 1 ワークショップを受講した。また、個別支援計画に基づき、Café Be や地域の店舗で PECS での購入支援を継続している。
 - ・12 月 24 日（火）に内覧会を実施し、多くの家族会会員の皆さんに参加いただいた。
 - ・1 月 20 日（月）真野 Dr.による「大腸がんについて」の勉強会をご家族対象に開催した。
- ②地域と共に
- ・たかつき〇まるしえを始めとする外販には機会があれば出店した。インスタグラムのフォロワー数も徐々に増え、出店情報やアート展の広報にも活用している。
 - ・BCP については、12 月に簡易版のメンテナンスを行い、厚生労働省のガイドラインに沿った様式の作成にも着手している。
 - ・2 月～3 月にボランティア体験講座へのご利用者の派遣、事業所見学の受け入れを行った。
- ③suginokobrand の確立
- ・事業所 HP、EC サイト作成については、担当者が不在となったため、次年度以降に積み残すことになった。
 - ・2 月に高槻城公園芸術文化劇場にて開催された「高槻アートチャレンジ 2024」に作品を出展した。また、ご利用者 2 名の作品が「型破りなアート展 2024」、2024 年度「かんでんコラボ・アート」でそれぞれオーディエンス賞、最優秀賞を受賞した。
- ④多様な働き方
- ・法人内、および中核的人材による SV については計画通りに進めることができた。
 - ・メンター 2 名、メンティー 2 名が事業所内外でそれぞれ面談を継続している。10 月 25 日のメンター交流会には業務の調整がつかず参加できなかった。
 - ・記録ソフトについては、1 社のソフトのトライアルを実施したが、事業所内の他の課題

もありほとんど試行できなかった。

⑤みんなで作る法人

- ・定期的な全体会議にて法人全体分も含め、進捗状況を確認した。
- ・新規で10名の利用者に対し重度障害者支援加算を算定した。また、職員4名が行動支援従業者養成研修を受講した。
- ・令和6年4月より高槻支援学校から4名、摂津支援学校から1名の新規利用者を確保した。

6. ぷれいすBe通所部門

(1) 令和6年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) ご利用者の評価、アセスメントを全利用者に行ない、根拠ある支援をすすめていく。
- ii) 支援スタッフ全員を対象とした、意思表出支援の内部研修を実施する。
- iii) PECS等の表出コミュニケーション支援を各チームで取り組みを進め、実践告会を開催する。

②地域と共に

- i) Café Beを利用して、野菜や自主製品(カフェ小物等)の販売を行う。
- ii) ご利用者に販売、接客をして頂き新しい仕事に繋げる。
- iii) 野菜や自主製品(カフェ小物等)の販売を通して、地域住民との関わりを深める。

③suginokobrandの確立

- i) SNSを使用した情報の発信、交換。
- ii) ご利用者が余暇活動等で制作したアート作品をSNS等で発信する。
- iii) アート作品展等の開催を企画し、SNS等で発信する。

④多様な働き方

- i) チームの垣根を越えて職員のフォロー体制を強化する
- ii) 土曜開所日等所属チーム以外の活動のフォローに行き、Be全体の事を理解する。
- iii) 非常勤職員のチーム異動を行ない、複数のチームの動きを知り、フォロー体制を確立する。

⑤みんなで作る法人

- i) 各チームのTL制度を廃止し、主体的に考え行動できるスタッフを育成する。
- ii) 常勤支援員は全員、リスクマネジメント会議や職員会議に参加し、活発に意見交換ができる機会を設定する。

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) 8月にコミュニケーション支援の研修を実施し、生活介護と就Bの全チームでコミュニケーション支援の取り組みを進め、11月に実践報告会を行った。Be全体でコミュニケーション支援を進める事ができた。
- ii) 余暇活動で地域のカフェ等を利用し、PECSを使用してメニューの注文をした。

②地域と共に

- i) 杉の子農園で収穫した野菜を毎週水曜日にCafé Beで販売した。
- ii) 11月にCaféBeで「はにわキッチン(こども食堂)」を開催し、カレーとホットドッグを販売した。当日会場スタッフとしてご利用者に配膳等の手伝いをして頂いた。会場で、自主製品のペットボトルキャップで作成した。アクセサリ類を販売し、ご利用者に販売スタッフとして働いて頂いた。

③suginokobrandの確立

- i) インスタグラムを活用して、ハロウィンやクリスマス会等のイベントの様子や、グループ活動で制作した作品等を発信した。

④多様な働き方

- i) 土曜開所日は、生活介護と就Bが合同でプログラムを実施し、所属チーム以外のご利用者やスタッフと交流を持つ機会を設けた。

- ii) 非常勤職員のチーム異動を行い、複数のチームの動きを把握してもらい欠員が出た際等にフォローに入った。
- ⑤みんなで作る法人
 - i) 常勤支援員は全員、リスクマネジメント会議と職員会議に参加し、情報共有と意見交換を行った。
 - ii) TL 制度を廃止した事で、各チームで業務分担を行い、各スタッフが責任を持って業務を遂行する事ができた。グループ活動で制作した作品等を発信した。

7. 地域生活支援レジデンスなさはら

(1) 令和 6 年度重要実施事項

- ①杉の子マインドの浸透
- ②地域と共に
- ③suginokobrand の確立
- ④多様な働き方
- ⑤みんなで作る法人

(2) 令和 6 年度の取り組み内容

- ①杉の子マインドの浸透
 - i) 権利擁護虐待防止の取り組みと継続しつつ、身体拘束適正化のため、パニック時の制止等に関しても個別面談で説明をし、同意を得ることができた方から身体拘束同意書を記入いただいている。
 - ii) アセスメントの力を高めるため TTAP、評価キットの実施を継続して行っている。また、評価まとめを使ったトレセミ風研修を行い、アセスメントから支援作成までのプロセスを学ぶ機会も設けている。
 - iii) 意思決定支援ガイドラインを参考に意思決定支援会議・意思決定支援をもとまちにて実施を行った。また、なさはらではニーズ意思整理表を活用し、意思決定支援の代理意思決定を高めている。
 - iv) 高齢化対応の質を向上させるため介護技術や医療との連携を学ぶため伊達コスモス 21 に 12 名の職員を送り支援の考え方、環境を学び、各 GH で取り入れ始めている。
 - v) 「一人暮らし」に関しては実施可能な情報は得ることができたが、高槻市の支給決定、サービス不足で実施はできていない。
 - vi) 福祉の研修だけでなく、一般企業向けの研修にも参加した。
- ②地域と共に
 - i) 事業所として阿武山祭りに参加を行った。またイルミネーション、花壇の整備を行った。
 - ii) ご利用者が地域とつながる機会を増やすため、通院や買い物はご利用者を一緒に行っている。
 - iii) 職員による地域資源開拓を行うため、チャレンジ的支援や 1 泊旅行を実施した。
 - iv) BCP を活用した災害時対応を行うため、講師を招き情報共有を行った。
 - v) 地域連携推進室会議については R7 年度に実施予定。
 - vi) 他法人や他事業所への研修やコンサルテーションなどを実施した。講師は計 28 回、コンサルテーションは計 24 回訪問している。
- ③.suginokobrand の確立
 - i) 萩の杜と合同会議を行っている。
 - ii) 外部視察・講師を務める suginokokai を意識することを努めている。
 - iii) 中核的人材の実施モデルは未実施。来年度は加算の範囲を狭め中核的人材の実践可能な実施モデルを確立する。
- ④多様な働き方
 - i) コスト面でシルバー人材は断念。意図はしていないが外国人労働者が増えてきている。
 - ii) 柔軟な勤務形態、夜勤者の仮眠の質向上などの取り組みを行った。
 - iii) テレワーク規定などを作り活用はしている。ICT は記録ソフトの導入を行った。
 - iv) 職員間コミュニケーションは児童と合同研修、三津屋北と主任交流を行っている。

- v)メンタルヘルスの一環としてヨガを実施した。またアロマやアサーション等の研修を行った。
 - vi)現場・主任のキャリアデザインを作成し試行実施。R7年度は見直しを行う。
- ⑤みんなで作る法人
- i)令和7年度に始まる利用時間に応じた報酬の情報を集めつつ、減収に備えた。
 - ii)災害時を想定し、法人内で助け合える工夫は医療連携推進室会議で行っている。
 - iii)講師派遣・コンサルテーションにより320万円増収している。

8. 地域医療支援部

(1) 令和6年度重要実施事項

- ①杉の子マインドの浸透
 - i) 権利擁護・根拠に基づく支援
 - ii) 療育の般化：willとの連携
- ②地域と共に
 - i) 法人内施設・事業所へのアウトリーチ
 - ii) 地域に住む家族とのサロン
 - iii) BCPの作成・対策推進
- ③suginokobrandの確立
 - i) パンフレット・マニュアルの作成
 - ii) 関係機関との連携
 - iii) 利用者クラブ活動・居場所づくりの検討
- ④多様な働き方
 - i) 研修計画の作成
- ⑤みんなで作る法人
 - i) 財務管理
 - ii) 職員のメンタルヘルス

(2) 令和6年度取り組みの内容と評価

- ①杉の子マインドの浸透
 - i) 権利擁護・根拠に基づく支援

要体協、虐待、引きこもり等困難事例について、意見が偏らないように職員複数名で対応できる体制を進めた。困難事例について、7割程度は支援の統一と複数回訪問が実現した。
 - ii) 療育の般化：willとの連携

今年度もwillとの合同研修を実施。訪問看護とwillの双方を利用している事例につき特性理解と構造化アイデアの研修及び課題分析の研修を実施した。合同研修後、事業所内で家庭での構造化のアイデア等を再検討、一部家庭で取り入れた。
- ②地域と共に
 - i) 法人内施設・事業所へのアウトリーチ

ニーズに基づき、萩の杜、ジョブサイトよど、レジデンスなさはらもとまち等法人内施設・事業所に訪問し医療連携を進める。医療連携加算を活用した。
 - ii) 地域に住む家族とのサロン

家族同士で話ができる場、家族サロンを11月20日に開催した。ご利用者は福祉サービスの繋がりのない方が多いので、参加者からは重宝された。
 - iii) BCPの作成・対策推進

BCPについて具体的な検証や防災訓練（連絡の趣味レーション）、eラーニングを活用したBCP・防災の意義を考えるワークショップも実施。意識を高めた。
- ③suginokobrandの確立
 - i) パンフレット・マニュアルの作成

パンフレット・マニュアルの作成は進まなかった。
 - ii) 関係機関との連携

ケースの紹介の受託、ケース会議等を通じて関係を深めた。

iii) 利用者クラブ活動・居場所づくりの検討

検討は進まなかった。

④多様な働き方

i) 研修計画の作成

個別の研修計画自体は作成できなかった。1on1 で個別ニーズの把握フォローを進めた。1on1 での希望から PECS 研修等を受講し表出コミュニケーション支援を深め実践につなげる職員も増えた。

⑤みんなで作る法人

i) 財務管理

定期的なミーティング時に事業所収支について共有することで、昨年度より約 1 千万円収入が増加し、事業活動収支では 6 百万円程度の黒字を確保できた。

ii) 職員のメンタルヘルス

実施できなかった。

9. アクトおおさか

(1) 令和 6 年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

発達障がい者支援センター事業を通じて杉の子マインドを府域にも浸透

②地域と共に

i) 発達障がい者地域支援力向上事業を通じた市町村コンサルテーションの継続

ii) ペアレント・メンター事業を通じた家族支援の充実と家族会との連携

③suginokobrand の確立

事業の取り組みや成果の情報発信

④多様な働き方

ICT 整備の促進を図り、多様で効率的な働き方の基盤を作る

⑤みんなで作る法人

法人内部署間交流研修の参加や受け入れを積極的に行い、他事業所との交流を図ることで風通しの良い法人づくりを推進

(2) 令和 6 年度取り組みの内容と評価

①杉の子マインドの浸透

発達障がい者支援センター運営事業を実施する中で、日頃より特性に基づいた根拠のある支援や本人中心の支援など「杉の子マインドの支援」を府民や地域の支援者に繰り返し伝えていく。センター事業としては、延 1,573 件の支援、24 回の研修主催または講師派遣、16 回の協議会を主催または参加した。また「発達障がいといじめ」と「自己理解支援」をテーマにセンター主催の公開講座を 2 回開催。計 718 名の申し込みがあり、反響が良かった（講師：iPEC 吉田友子先生、鳴門教育大学小倉正義先生）。

②地域と共に

i) 茨木市、摂津市、門真市、羽曳野市、泉佐野市の 5 市に対して、発達障がい児者支援の支援体制向上に向けたコンサルテーションを計 3 年間で実施している。1 年目の令和 6 年度は、庁内の部局横断会議や自立支援協議会を軸に Q-SACCS を用いた地域評価を行った。各市の課題に対する取り組みやアイデアを地域事情に応じて考えた。

ii) 10 年間の事業で蓄積したアンケートを分析。質的研究の結果、メンターの体験談を聞いた保護者や支援者、教育関係者の気持ちや感想の傾向を見出すことができた。事業の意義を再確認できたと共に今後の事業の普及啓発や事業展開に繋げていくためのヒントを得ることができた。メンター活用の依頼は年々増加しており、今年度は過去最高の 29 件に達した。確実に府域内で家族支援の一助を担う本事業が普及しており、事業を通じて府域の各家族会とも密な連携が取れている。

③suginokobrand の確立

日本発達障害学会と成人期発達障害支援学会にて計 3 つ研究（家族支援や市町村コンサル、成人期の自己理解支援についての成果）の発表を行った。

④多様な働き方

全正職員に携帯とノート PC を支給した。セキュリティを担保しながら緊急時の在宅ワークなども含め場所を限定しない働き方ができる体制を作った。

⑤みんなで作る法人

エンゲージメントプロジェクトに職員 1 名を派遣した。また、発達支援拠点 will・Link との合同ケース検討会を実施し、子どもと成人期の事例を共有した。ライフステージを通した幅広い事例を学ぶ機会を持った。

10. あんだんて・wish

(1) 令和 6 年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

個々のニーズに合わせて必要な支援に繋ぐ

②地域と共に

点から線へと繋いで発展させる

③suginokobrand の確立

長期的な視点をもって創造的に繋いでいく

④多様な働き方

児童・成人の相談支援連携

業務効率化

⑤みんなで作る法人

事業所を超えた人材活用/人材育成

事業の適正化

(2) 令和 6 年度取り組みの内容と評価

①杉の子マインドの浸透

i) あんだんて、wish 双方の相談員でケースを共有し、成人期、児童期の個々のニーズに合わせて必要な支援に繋ぐために毎週合同会議を開催。それぞれのニーズ、社会資源などの情報を共有した。

②地域と共に

ii) 高槻市自立支援協議会（ケアマネ連絡会相談支援部/課題整理部、こどもワーキングなど）昨年引き続き自立支援協議会への参画をした。

iii) 高槻市相談支援事業所連携会議を主催。新人相談支援員の会のほか、主任相談支援専門員の会を開催。高槻市基幹相談支援センターとも連携を行った。

③suginokobrand の確立

i) 将来への不安を感じている児童期のご家族に向けて勉強会「卒業後の進路について」を実施した。保護者同士で情報交換ができる茶話会を CafeBe で実施した。

④多様な働き方

i) ICT 化の定着：ブルーオーシャン（介護記録ソフト）とタブレットの活用を継続した。

ii) クラウドやグーグルドライブを活用することにより、遠隔（本部）にて相談支援事務を行った。

⑤みんなで作る法人

i) 事業の適正化：収支や事業状況を可視化し毎月会議で共有することで事業運営に対して、相談員全員で参加する意識を持つようになった。

11. ジョブサイトよど

(1) 令和 6 年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

i) 季節、気候に合わせた余暇などの活動を充実させます。

ii) 生活習慣病への理解を深め、予防・改善策を実施します。

iii) 意思決定支援の取り組みを進めます。

②地域と共に

i) 地域資源の開拓・活用をおこない、施設外での活動を拡大します。

ii) SNS やホームページ等への発信を強化します。

③suginokobrand の確立

i) 人材育成の取り組みを進めます。

ii) e ラーニングの活用を広げます。

④多様な働き方

i) 休憩の確保について形態の検討、実行をおこないます。

ii) 職員間のコミュニケーション強化を進めます。

iii) 法人内外の他事業所との交流を進めます。

⑤みんなで作る法人

i) 災害や感染症に対応した BCP (事業継続計画) に取り組みます。

ii) 事業所内でのご利用者の活動を見直し、新しい活動を取り入れます。

iii) 報酬改定に応じた対策を図り、収支改善に取り組みます。

(2) 令和 6 年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

i) 当初は年 3 回程度としていたが、1 階の壁面を利用してほぼ毎月、ご利用者が作成した季節に合わせた創作物を掲示することができた。各フロアにおいても、創作のほかお菓子作り等の調理活動を実施した。

ii) 家族会定例会にて生活習慣病についての講義を開催し、神垣看護師が講師を務めた。また、運動エリアの整理をおこない新たな機器の購入や運動プログラムの実施、事業所内での内部研修等をおこなった。

iii) 事業所内で意思決定支援に関する勉強会を開催した。また、PES レベル 1 ワークショップを正職員 1 名が受講したが、具体的な取り組みまでには至らなかった。

②地域と共に

i) 各フロアで地域資源を利用した外出や、近隣でのイベント等に参加する機会を増やした。秋には日帰りレクリエーションをおこない、小集団での外出をおこなった。

ii) よどかわら版を毎月作成し、配布をおこなった。また、新しくインスタグラムを開設し、事業所内外でのご利用者の様子や日々の取り組みなどを発信した。

③suginokobrand の確立

i) 外部スーパーバイザーとして中山清司氏に定期的に訪問いただき、ケース相談等をおこなった。また、事業所内での実践報告のほか、自立支援協議会主催の勉強会でもケース報告をおこなった。

ii) 事業所内での内部研修にて e ラーニングを活用した研修を開催した。引き続き活用方法の検討をおこなう。

④多様な働き方

i) 必要に応じて、管理職・主任が各フロアのカバーに入りながら休憩時間の確保に努めた。

ii) 職員体制が整わず、当初予定していたフロア間交流や個人面談を形にすることができなかった。

iii) 職員体制が整わず、施設見学や交流を具体的に進めることができなかった。

⑤みんなで作る法人

i) 避難訓練を実施したが、BCP を意識した取り組みまでには至らなかった。

ii) 運動エリアの環境設定を進めてきたが、具体的なエリア活用までには至らなかった。

iii) 正津介護事業に新たに設けられた標準利用時間を個別支援計画に落とし込み、ご利用者ご家族への周知をおこなった。また、強度行動障害支援者養成研修(基礎)を正職員 2 名が新たに受講し、加算取得の体制を整えた。

1.2. ジェイ・ブランチャード

(1) 令和 6 年度重要実施事項

- ①杉の子マインドの浸透
 - i) 平均工賃の向上を目指します。
 - ii) 余暇活動の取り組みを推進します。
 - ②地域と共に
 - i) 地域生活を支える事業所間での連携・協力体制を図ります。
 - ii) 社会資源を活用し、地域との関係作りをすすめます。
 - ③suginokobrand の確立
 - i) 自主製品の販売促進を目指します。
 - ii) SNS を活用し、外部への情報発信を進めます。
 - ④多様な働き方
 - i) 内部研修の年間計画を立案し、着実に実行します。
 - ii) 職員間のコミュニケーション強化を進めます。
 - ⑤みんなで作る法人
 - i) 平均工賃向上の取り組みを事業所全体でおこないます。
 - ii) 報酬改定に応じた対策を図り、収支改善に取り組みます。
 - iii) 災害や感染症に対応した BCP（事業継続計画）に取り組みます。
- (2) 令和 6 年度の取り組み内容と評価
- ①杉の子マインドの浸透
 - i) 令和 6 年度の平均工賃額は約 14,000 円となり、前年度を上回る金額にはなっていたが、大阪府の平均工賃額とは大きな差が生じている（令和 5 年度 18,176 円）。工賃原資の獲得に向けて単価交渉等が必要となる。
 - ii) 10～11 月にかけて日帰りレクリエーションをおこなった。ご利用者へ事前アンケートをおこない、3 か所の行き先に分かれて実施した。また、ご利用者のアート作品が展示されているギャラリー等への鑑賞にも出向いた。
 - ②地域と共に
 - i) 必要に応じてグループホームや相談支援事業所と連携を図りながら、ご利用者の情報共有や支援内容の確認等をおこない、方向性の確認や対応の統一を図った。
 - ii) 地域のアート活動に参加し、近隣ギャラリーや区役所での作品展示や、「十三アートフェス」に参加し、ジョブサイトよど 1 階をギャラリーとして解放して作品展示やディスコ、講演会などを開催した。
 - ③suginokobrand の確立
 - i) 近隣ギャラリー等の作品展示に合わせて販売もおこない、売り上げについてはご利用者個々の工賃として還元した。
 - ii) 「木工房 so what」名義でインスタグラム及びフェイスブックを利用し、イベント案内や報告、事業所での取り組み等を発信した。
 - ④多様な働き方
 - i) 人権研修として職員全員で一本の映画を鑑賞し、鑑賞後に事後研修として映画の内容に関連した「マイクロアグレッション」について学習し、日々の振る舞いや意識の中に差別や偏見が潜んでいないか確認をおこなった。また、法人スーパーバイザーの中山清司氏を囲んで座談会を開催した。
 - ii) 管理者および主任が個人面談をおこなった。また「仕事のもやもやアンケート」を実施し、普段気になっているがそのままにしていること等の意見交換をおこなった。
 - ⑤みんなで作る法人
 - i) 毎日の朝礼や作業後の振り返り時間を設け、作業の進捗やご利用者の様子等を共有した。また、ご利用者及びご家族へ満足度調査をそれぞれ実施し、調査結果をお知らせした。
 - ii) 新規利用者との契約をおこない、新たに 1 名のご利用者の利用が始まった。またご利用者の状況の変化や生活スタイルに合わせて、通所日数の増減等をおこなった。

iii) 避難訓練の実施をおこなった。

1 3. 地域生活支援部レジデンスよど

(1) 令和 6 年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) QOL の向上・より良い暮らしの実現に取り組みます。
- ii) 他事業所や他サービスとの連携を強化します。
- iii) 意思決定支援の理解や取り組みを進めます。

②地域と共に

- i) 地域資源の開拓と活用を進めます。
- ii) SNS やホームページ等への発信を強化します。

③suginokobrand の確立

- i) 人材育成の取り組みを進めます。
- ii) 地域との連携・情報発信をおこないます。

④多様な働き方

- i) 三津屋北-十三ホーム間の連携強化をおこないます。
- ii) 職員間のコミュニケーション強化を進めます。

⑤みんなで作る法人

- i) 安定・継続したサービスを提供します。

(2) 令和 6 年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) クリスマス会やバレンタイン、ハロウィンの飾り付けなど、季節に応じた余暇活動や周年記念の取り組みを両ホームで実施した。また、生活習慣病予防への取り組みとして研修動画の視聴等をおこなった。
- ii) 日中活動先であるジョブサイトよどやジェイ・ブランチよどとメールやチャットによる情報共有やケース会議開催の他、必要に応じて相談支援事業所を含めた担当者会議を開催し、連携を図った。
- iii) 三津屋北主任と十三正職員 1 名が PECS レベル 1 ワークショップを受講、また十三主任と三津屋北正職員 1 名がトーキングマット研修を受講した。今後、両ホームにて具体的な取り組みを進めていく。

②地域と共に

- i) 近隣店舗（喫茶店、理髪店、医療機関など）の利用をおこなった。また法人内外の事業所見学等をおこなった。十三ホームでは訪問歯科を利用し、歯科通院が苦手なご利用者の歯科治療をおこなった。
- ii) 三津屋北ホームに SNS 広報担当を設け、定期的にインスタグラムでご利用者の日々の様子や活動について発信した。また他法人での SNS 活用を知るために施設見学をおこなった。

③suginokobrand の確立

- i) 定期的に研修動画を準備し、各スタッフが見やすい時間帯で視聴をおこなった。また、法人スーパーバイザーの中山清司氏に訪問いただき、ケース相談をおこなった。また外部研修を受講した職員は各ホームの会議にて復命講習をおこない、学びの共有をおこなった。
- ii) 不定期ではあったが三津屋北主任が自立支援協議会に出席し、他法人・関係機関との繋がりを持った。両ホームとも自治会には加入しているが、地域でのイベントや行事に参加することはなかった。

④多様な働き方

- i) 正職員 1 名を三津屋北-十三ホーム兼務としていたが、退職者補充が進まず、途中で三津屋北の専任に変更した。必要に応じて十三主任が三津屋北のフォローに入るほか、合同研修や互いのホーム見学などをおこなった。
- ii) 正職員については管理職による人事考課面談のほか、主任による面談を年 2 回実施した。パートスタッフについても正職員が年 2 回面談の機会を持つよ

うにした。

⑤みんなで作る法人

- i) 災害に備えた研修動画の受講や備品の購入、火災発生時の避難訓練や地震発生時の垂直避難訓練等を実施した。また、ご利用者ご家族へ満足度調査を実施し、その結果を公表した。

1 4. 就労支援部

【ジョブジョイントおおさか】

(1) 令和6年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) 職歴ありの人を対象にしたプログラム開発を進める。
- ii) 就労選択支援の実施を見据えた「就労アセスメント」の標準化の検討。
- iii) 就労定着支援が終了した方の支援の在り方を検討し、今後の方針を就職者に伝える。
- iv) 就職者15名の実績を目指す。(内JC支援対象者数:7名)
- v) 充足率・登録者数の目標達成を目指す。

②地域と共に

- i) 「地域の就労支援」を事業テーマとし、事業展開のあり方を検討する。
- ii) 新規利用者集客への地域連携としてweb広報と支援機関への訪問に注力する。
- iii) 働くチカラPROJECTを登録制で運営する。
- iv) 障がい者雇用セミナーを定期開催する。(年間2回)

③suginokobrandの確立

- i) A型・B型卒の就職者へのジョブコーチ支援を試行実施する。
- ii) 障害者雇用企業の雇用サポートを試行実施する。

④多様な働き方

- i) 第7回の実践報告会を開催する。
- ii) 外部講師による内部研修を定期的に行う。

⑤みんなで作る法人

- i) TeachmeBizで職員向けマニュアルを作成・整備する。
- ii) サーバー内のデータ整理を行う。

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) 職歴ありの人を対象にしたプログラム開発に向けて所内で会議を開催し、プログラムの細かな見直しを行った。
- ii) 厚労省の就労選択支援のモデル事業に星明が委員として参加し、最新情報の収集に努めながら、それを活かせるための標準化と仕組み化の検討を行った。
- iii) 就労定着支援が終了する方の定着支援のあり方について、所内で複数回の会議を開催した。就労定着先終了後の支援については、年間2回の支援を基本頻度とすることとした。方針は就職者にも郵送や面談で案内を行なっている。
- iv) 就職実績は、目標を超える20名となった。ただ、充足率と登録者数は目標に届かなかったが、高槻は徐々に新規利用者が増えることとなった。
高槻の充足率(年平均):就労62%、自立55%
高槻の登録者数:就労16名、自立13名

②地域と共に

- i) 地域連携で関係機関のご意見や地域ごとのニーズ、課題感を聞かせてもらう中で「地域」をテーマにした就労支援を検討した。
- ii) 昨年度に続けて100件の関係機関に訪問した。また、ホームページで定期的にブログを発信し、InstagramとFacebookで展開した。また、適宜ホームページを改修し、就職先の企業ロゴの掲載などを行なった。
- iii) 15名の学生さんが参加登録をされ、就活準備講座、インターンシップ、個別相談に参加された。また、参加学生のうち、4回生2名が就労移行支援の新規利用として契約に繋がった。

iv) 所内で会議を重ねてセミナーの企画を検討したが、講師の検討に時間がかかり、結果的には開催ができなかった。

③suginokobrand の確立

- i) 先行的に取り組む事業所にヒアリングに行き、ジョブコーチ支援を外部から請け負うことを検討したが、結果的には試行実施はできなかった。
- ii) 10月に大阪労働局の認可を受け、企業コンサルを行う雇用相談援助助成金の活動を開始した。令和6年3月末現在で2社の企業に対して助成金による企業コンサルを実施している。

④多様な働き方

- i) よこはま発達クリニックの副院長宇野先生に基調講演をお願いし、第二部では3名の就職者の担当スタッフによる実践報告を開催し、100名近い方が参加して下さった。
- ii) 外部講師による内部研修を定期的に開催する
高槻市障がい者就業生活支援センターの陸野さんにお越しいただき、ケース検討会を開催した。

⑤みんなで作る法人

- i) 少しずつではあるが、職員向けのマニュアルをICTによる TeachmeBiz で作成した。
- ii) 所内で検討を進めたものの、データ整理に取り組むことはできなかったため、次年度に引き続き取り組んでいきたい。

【ララショコラ】

(1) 令和6年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) クレドの浸透を図る。
- ii) 内部研修・eラーニングの活用などにより職員のスキルアップを図る。

②地域と共に

- i) 地域性のある商品開発を進める。
- ii) 販路の維持・拡大、外販の定期実施、イベント実施など地域との接点を増やす。

③suginokobrand の確立

- i) 店舗のブランディングを高め、認知度を高める。
- ii) 販売スタッフのスキルアップを図り、お客様満足度の向上を目指す。
- iii) 作業内容の充実と作業環境の整備について検討を進める。(ステップの移転も含めて検討を進める)

④多様な働き方

- i) コミュニケーションの活性化によりチームワークの向上を図り、働きやすい職場環境をつくる。
- ii) マニュアルを整備し、業務の標準化と働きやすさの向上を図る
- iii) スタッフ配置の見直しを行い、フォロー体制の整備と事業所としての一体感の向上を目指す。

⑤みんなで作る法人

- i) 収支改善に取り組む

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) 日々クレドを振り返り、他者との共有を図る中でクレドの浸透を図ることができた。
- ii) 内部研修を年に3回実施した。毎月eラーニングのおすすめコンテンツを全スタッフにお知らせした。

②地域と共に

- i) たかつきレモンを使用した「たかつきレモンショコラ」は製造・販売することができた。その他地域性を生かした商品開発は進められなかった。
- ii) 例年よりも多くの外販に参加することができ、ご利用者に販売にも携わっていただく機会を増やすことができた。

③suginokobrand の確立

- i) 店舗のディスプレイ用品を整え、四季やイベントに合わせた雰囲気を出せるように意

- 識した。またユニフォームも店舗のイメージにあせた形でリニューアルした。
- ii) 販売スタッフのマニュアルを更新し、スタッフ間での確認を行った。短期スタッフの方にも更新したマニュアルを活用していただくことができた。
 - iii) よりよい作業環境や立地などを意見交換するなど、移転に向けた準備を始めることができた。具体的に物件を調べたり、見学に行くことでイメージ作りにも繋がったが、なかなか条件に合う物件を見つけることはできなかった。
- ④多様な働き方
- i) 日々の終礼や定例会議、チャットワーク等での情報共有などによりコミュニケーションの機会を持つよう取り組んだ。
 - ii) 各現場のマニュアル作成・更新を行い、新規のスタッフへの引継ぎをスムーズに進められるようにした。
 - iii) 厨房・ステップ間でのフォロー体制や店舗・厨房でのフォロー体制を強化できるよう体制の見直しを行った。プラスの面もあった一方で、複数の現場を把握する必要が出てきたり、繁忙期に無理が生じることもあったため、引き続き横断的に無理なくフォローしあえる体制を整えていきたい。
- ⑤みんなで作る法人
- i) 就労会計・福祉会計ともに収入については概ね目標を達成することができたが、人件費の増加や材料費の高騰などにより支出も大きくなったことにより、収支全体では目標達成することができなかった。

1 5. 児童発達支援部

【豊中市立児童発達支援センター通所部門】

(1) 令和6年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) 職員の人権意識の向上や虐待防止に向けた実践
- ii) 積極的な事業所間交流や実習受け入れ

②地域と共に

- i) 新規事業のスムーズな立ち上げ
- ii) 保護者支援の継続

③suginokobrand の確立

- i) 積極的な広報活動
- ii) 法人内外での実践発表

④多様な働き方

- i) ICT の活用をさらに進める
- ii) 人材確保の取り組み

⑤みんなで作る法人

- i) 職員全員が事業所運営について理解しやすい仕組みを作る

(2) 令和6年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) 職員の人権意識の向上や虐待防止に向けた実践：職員の人権意識の向上や虐待防止に向けた実践：事業所内で権利擁護研修を実施。虐待防止委員会に現場職員も参加。終礼時、各事業で権利擁護について気になったことを確認するようにした。
- ii) 積極的な事業所間交流や実習受け入れ：法人内外との見学・交流を積極的に実施。令和6年度は、肢体不自由児の支援をしている機関への視察を多く実施した（東大阪はばたき園、高槻療育園、一般社団法人ゆこり）。

②地域と共に

- i) 新規事業のスムーズな立ち上げ：新規事業に対しスーパーバイズの設定。（肢体不自由児親子通所事業：はじまりの家 言語聴覚士 都築昌子先生、一般社団法人ゆこり 理学療法士 松本先生）（2歳児親子通所事業：川崎医療福祉大学 諏訪利明先生）
- ii) 豊中市立児童発達支援センターとの連携：現場職員も含め、市職員とのコミュニケ

ーションを深めた。

③suginokobrand の確立

- i) 積極的な広報活動：フェイスブック・インスタグラムで定期的に取り組みを発信。
- ii) 法人内外での実践発表：TEACCH プログラム研究会・大阪 PECS サークル・大阪府立寝屋川支援学校実践交流会、5 法人ジョイントセミナーにて、実践発表を実施。

④多様な働き方

- i) ICT の活用をさらに進める：保護者との連絡ツールソフト（コドモン）や Google ワークスペース、LINE ビジネスの機能を活用。
- ii) 人材確保の取り組み：法人の採用活動に対し積極的に協力した。

⑤みんなで作る法人

- (1) 職員全員が事業所運営について理解する仕組みを作る：業務マニュアルを作成・整理。

【will/Link】

(1) 令和 6 年度重要実施事項

①杉の子マインドの浸透

- i) 市町村や関係機関との連携の中で、研修の依頼等を受け、発達障害の特性理解や、特性に基づく支援（根拠ある支援）を府内に広めていく。
- ii) 「発達支援拠点」の役割を明確にしたうえで、児童発達支援センターと連携し、児童発達支援センターの機能強化の一助となる。

②地域と共に

- i) これまでの市町村や関係機関との連携を基盤とし、さらなる連携の幅を広げ、様々な多職種連携や、他地域との連携を深める。

③suginokobrand の確立

- i) 大阪府発達支援拠点として、「機関支援マニュアル」を活用し、系統立てた機関支援の実施および機関支援を実践できる人材育成を行う。

④多様な働き方

- i) 様々な就労形態の職員を受け入れ、柔軟な働き方を受け入れる。

⑤みんなで作る法人

- i) will・Link における収支状況を職員全員で把握しながら、報酬改定を受けて新たなサービスやニーズベースのサービスの検討を図る。

(2) 令和 6 年度の取り組み内容と評価

①杉の子マインドの浸透

- i) 高槻市・島本町・寝屋川市、八尾市より、研修の依頼を受け、特性の理解に向けた研修を実施することが出来た。
- ii) 茨木市・摂津市、守口市・門真市・交野市において、大阪府通所支援事業を活用し、児童発達支援センターへの機関支援を実施。中でも茨木市と守口市については、センターの中核機能を担うべく、他の機関支援への同行／センター内での機関支援を計画的に実施し、中核的人材の育成を図った。

②地域と共に

- i) 交野市においては、教育機関との連携が取れ、教職員に向けた研修を実施したり、令和 7 年度より事業を開始すべく、枚方市の教育委員会との連携を図ることが出来た。次年度は、枚方市の教職員を対象に、職員研修を実施する予定。大阪府より、早期療育を担う職員（母子保健・保健師・児発センター職員）向けのオンデマンド研修の研修依頼を受け、講師を務めた。「発達からくる困りごと」「アセスメントの仕方」「家族支援」のテーマまで研修を実施した。

③suginokobrand の確立

- i) Will おいて機関支援を担う職員を 1 名、主担当の職員と帯同で機関支援を実施。機関支援のノウハウを OJT で学んでもらった。機関支援の中での研修の主講師を務めてもらったり、フィードバックの主担等を担っていただいた。保護者向けの研修では、保護者同士の交流の場を設け普段のわが子の様子について振り返ってもらったり、家庭で使えるグッズを作成していただいた。

④多様な働き方

- i) 令和6年度において、will/Link 合わせて正職員3名/非常勤職員2名増員した。正職員3名は全て、法人内の他の事業所からの異動者であった。非常勤2名はこれまで他で福祉職を担っていた。様々な雇用形態の職員と業務にあたる事で、多角的に子どもの現状について検討することが出来るようになっている。

⑤みんなで作る法人

- i) 収支状況について、職員間で共有し、欠席の振替えを行い、充足率を上げるように努めた。

II. 各組織・事業の実施報告

1. 法人本部

(1) 理事評議員会

理事会	評議員会	開催日	決議事項	
第153回 理事会		令和6年 5月7日	第1号議案 工	ジョブサイトひむろ増築工事(2期 事)請負契約に関する件
第154回 理事会		令和6年 5月27日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案	理事候補推薦の件 理事長報酬承認の件 令和5年度 事業報告承認の件 令和5年度 決算承認の件 令和5年度 監事監査報告の件 令和6年度補正予算案承認の件 理事長職務執行状況報告の件
	第73回 評議員会	令和6年 6月23日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	理事選任の件 令和5年度 事業報告承認の件 令和5年度 決算承認の件 監事監査報告の件
第155回 理事会		令和6年 7月16日	第1号議案 第2号議案	(仮称)レジデンスはぎのみり(A 棟、B棟)新グループホーム入札と 建設スケジュールの件 (仮称)レジデンスはぎのみり(A 棟、B棟)新グループホーム建設に 係る公告事項の件
第156回 理事会		令和6年 7月22日	第1号議案 第2号議案 第3号議案	役員等賠償責任保険契約の件 滋賀銀行からの借入の件 諸規則、規程類の改正の件
第157回 理事会		令和6年 8月5日	第1号議案 第2号議案	(仮称)レジデンスはぎのみり入札 参加業者選定の件 入札予定価格決定の件
第158回 理事会		令和6年 8月26日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	諸規則、規程類の改正の件 理事長職務執行状況報告の件 独立行政法人福祉医療機構からの借 入の件 共同生活援助(仮称)レジデンスは ぎ のみりA棟、B棟の新築工事請負契 約に関する件
第159回 理事会		令和6年 11月15 日	第1号議案	独立行政法人福祉医療機構からの借 入の件
第160回 理事会		令和6年 11月25 日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	規定の変更の件 理事長職務執行状況報告の件 令和6年度各事業進捗報告の件 令和6年度補正予算案承認の件
第161回 理事会		令和7年 3月31日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案	法人組織再編の件 諸規則、規程類の改正の件 令和7年度 事業計画(案)の件 令和7年度 予算(案)の件 評議員候補者の選定の件

			第 6 号議案	評議員選任・解任委員会招集の件
			第 7 号議案	定時評議員会開催の件
			第 8 号議案	理事長職務執行状況報告の件

(2) 職員定期健康診断

健診内容：35 歳以上の社会保険加入者は「生活習慣病予防健診」を受診。

上記以外の職員は「一般健診」を受診。

日程：令和 6 年 10 月～令和 7 年 2 月

【高槻地区事業所】

場所：愛仁会 総合健康センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 237 名。

【十三地区事業所】

場所：医療法人健昌会 淀川健康管理センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 58 名。

【自閉所療育センターLink】

場所：医療法人 敬節クリニック

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 3 名。

【アクトおおさか】

場所：橘甲会 大阪予防医学健診センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 6 名。

【豊中市立児童発達支援センター通所部門】

場所：一翠会千里中央健診センター

健診対象者：週あたり 20 時間以上勤務の職員 24 名。

(3) コンサルテーション室

1：施設コンサルテーション

国立のぞみの園特別支援課、東京都社会福祉事業団東村山福祉園、来島会南海学園などの 10 法人に加え、兵庫県強度行動障害支援スーパーバイザー養成事業に参画している 10 法人の複数の事業所に対し、合計 193 回のコンサルテーションや研修を実施した。また、法人内の 4 事業所に対し、合計 19 回のコンサルテーションを行った。

2：講演など

福島県社会福祉協議会、貝塚市人権推進課などから依頼を受け、強度行動障害児者への支援、発達障害児者への支援に関する講演を行った。

3：シンポジストなど

三重県障害福祉課、兵庫県知的障害者施設協会などが開催する体制整備のための連絡会や実践報告会などにおいて、助言者を務めた。

評価

特に今年度は、クライアントの複数の事業者・施設において、過去に 24 時間中 23 時間 30 分拘束が必要だったなど著しい行動障害が顕在化していた人の支援に関して、コンサルテーションにおける助言を生かしていただいたことによって、かなり自立した生活が送れるようになった事例が複数報告されている。

のぞみの園での成果を見学された法人から新たなコンサルテーションの依頼があり、成果がクライアントの獲得にも寄与している。

すでに、来島会南海学園のコアメンバーの中から、他法人へコンサルテーションに招かれる人材が輩出されているが、今年度は兵庫県強度行動障害スーパーバイザー養成事業において、11 人がスーパーバイザーとして県知事から認定証を交付された。これらの人材は、将来的に広域支援人材として活動させるということである。その内の数名は、すでに所属の法人以外からの依頼を受け、有料のコンサルテーションを展開している。

府県をまたぐ広い範囲で、北摂杉の子会が強度行動障害の状態像を示す人、自閉症スペクトラムの人に対する標準的な支援のできる人材の育成に寄与しているといえよう。

事業は順調に展開されており。講師料収入は約 1730 万円であった。

(4) 経営戦略企画室

①中期計画の進捗管理

進捗管理シートを作成し、担当部長に入力依頼をした。

人材確保育成支援室と定期的に意見交換を行い、中期計画の見直しを行った。

②北摂杉の子会セミナー2024

以下のプログラムで開始し、356名の方にご参加（視聴）していただいた。

◆テーマ：「強度行動障がいのある方々の豊かな暮らしの実現と人材育成を考える」

◆日時：2024年11月9日（土）10：00～16：30

◆形式：zoom ウェビナー（アーカイブ配信あり）

◆講師：古川 慎治氏（国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 理事）

加藤 潔氏

（社会福祉法人はるにれの里自閉症者地域生活支援センターなないろ 所長）

志賀 利一氏

（NPO 法人 PDD サポートセンターグリーンフォレスト 理事長）

中山 清司氏（自閉症 e サービス全国ネット代表）

◆参加費：無料

③農福連携

6月11日（火）に、奈良にある社会福祉法人青葉仁会を視察。

高槻地域でお世話になっている地主さんや地元の方と一緒に視察を行った。

④スタッフの声

5名の職員の方にご協力いただいた。

（萩の杜、レジデンスなさはら、訪問看護、an、ジョブサイトよど）

⑤ソーシャルメディアガイドラインの策定

ICT委員会と連携し、ソーシャルメディアガイドラインを策定した。

⑥事業連携会議への出席

法人本部、人材確保育成支援室、経営戦略企画室で開催する事業連携会議に出席。

法人経営に関する議題について定期的に意見交換を行った。

⑦シンボルマーク浸透の取り組み

昨年度作成したシンボルマークの活用と浸透にむけて、以下のものに活用した。

機関誌、クリアファイル、車用マグネット、ステッカーなど

(5) 人材確保育成支援室

①杉の子マインドの浸透

- ・令和5年度に続き研修企画運営プロジェクトを立ち上げ、令和7年2月の法人研修において階層別研修の企画・運営をおこなった。

【研修企画運営プロジェクトメンバー】

岡 あゆみ	アクトおおさか
桑原 涼	ジョブサイトよど
原田 紀之	ぶれいす Be
向井 勝哉	児童デイサービスセンターan
松田 勇祐	ジョブサイトよど
下 裕幸	人材確保育成支援室
山田 優	人材確保育成支援室
石原 由佳	人材確保育成支援室

②地域と共に

- ・経営戦略企画室と協同のもと杉の子会セミナー実行員会を立ち上げ、11月にセミナーを開催した。

③suginokobrandの確立

- ・法人内 PECS コアメンバーを中心に、児童精神科医の門 Dr を迎え各事業所での SV をおこなった。

【PECS コアメンバー】

岩城 望	豊中市立児童発達支援センター 通所部門
鍵村 茜音	萩の杜
宮脇 彩香	will
渡邊 佳奈	豊中市立児童発達支援センター 通所部門
井出 帆香	レジデンスなさはらもとまち

- ・社会福祉法人はるにれの里（北海道）と職員交換研修の取り組みを進め、9～10月にかけて、両法人より1名ずつの職員交換研修を実施した。

【はるにれの里 - 北摂杉の子会交換研修】

研修参加者	受け入れ事業所	研修期間
林 克己 (はるにれの里)	ふれいす Be	9/9～/13
木村 嘉津夫 (北摂杉の子会)	自立支援センター ゆい	10/7～10/11

④多様な働き方

- ・第4期キャリアパスプロジェクトを立ち上げ、キャリアパスの運用方法について検討をおこなった。

【キャリアパスプロジェクトメンバー】

新谷 沙弥香	will
原田 智弘	ジョブサイトよど
富 亜紀子	LaLa-chocolat
米倉 充音	豊中市立児童発達支援センター 通所部門
野条 さりな	萩の杜
花下 香菜	豊中市立児童発達支援センター 通所部門
下 裕幸	人材確保育成支援室
石原 由佳	人材確保育成支援室

- ・昨年度に続き、事業所の枠を越えたななめの関係のもと、メンター制度の取り組みを継続した。10月にはメンター交流会を開催した。

【メンター制度推進担当】

松本 浩典	萩の杜
下 裕幸	人材確保育成支援室
石原 由佳	人材確保育成支援室

- ・メンタルヘルス対策として、大阪民間社会福祉事業従事者共済会が実施しているカウンセリングサービスを法人全体へ周知した。

⑤みんなで作る法人

- ・新たにエンゲージメント向上プロジェクトを立ち上げ、職員間交流についての企画検討をおこない、1月に法人内広報誌「すぎのこねくと」を発行した。また、令和7年4月法人研修で実施する職員交流研修の企画をおこなった。

【エンゲージメント向上プロジェクトメンバー】

勝部 真一郎	萩の杜
佐藤 沙織	アクトおおさか
前田 美奈	レジデンスなさはら
浮田 千紗子	豊中市立児童発達支援センター 通所部門
玉井 敬子	ジョブジョイントおおさか たかつきランチ
伊藤 優花	ジョブジョイントおおさか
下 裕幸	人材確保育成支援室

山田 優	人材確保育成支援室
石原 由佳	人材確保育成支援室

(6) 医療連携推進室会議

① 杉の子マインドの浸透

i) 高齢化・重度化対策と高齢化・重度化に伴う医ケアの事例の集積

萩の杜の高齢化対応グループホーム設置の進捗状況・課題点を確認してきた。また、地域医療支援部の新規事業(高齢知的障害者とそのご家族を対象にした訪問看護、成年後見、介護保険利用に伴う相談を一体的に行う事業)の検討をした。高齢化/重度化医ケアの事例集積は未実施。

ii) 強度行動障害児(者)の医療度判定基準の検討・利用

令和6年医療診療報酬改定で規定。法人利用者の入院の際等に関連も考えられる。また、強度行動障害児者を多面的に理解するため検討が必要だが、未実施。

② 地域と共に

i) BCP(感染症・災害)の普及・更新

7月の法人研修でBCP(感染症)について取り上げた。また、11月に法人全体のBCPの作成に向けた検討と次回2月の法人研修でのBCP研修の内容を検討した。2月、3月は法人全体(本部)のBCP作成について検討を進めた。

③ suginokobrandの確立

i) 北摂杉の子会の医療連携の在り方を検討する

ii) 法人内部の医療職の活用、連携を検討していく

11月に地域医療支援部新規事業案を検討した際に、連携の在り方についての検討する。その後、地域生活支援部と地域医療支援部で打ち合わせを行う。高齢化対策としての健康チェックや医療職による研修等を盛り込む。2025年度から具体的に医療連携体制が動き出す。

④ 多様な働き方

i) 感染症・災害時の(ラインを外れた)職員の応援時の働き方の検討

ii) 他事業所への応援体制及びその勤務条件

11月に法人の危機管理対策マニュアルを見直す。法人全体のBCP作成に向けて、他法人の法人全体のBCPを検証した。今後、法人の具体的な応援体制等を検討し、法人全体のBCPに記載する。

⑤ みんなで作る法人

i) 感染症対策委員会の開催

感染症対策委員会を定期的に開催できた。各事業所の現在の感染対策の状況、BCP作成状況等を確認した。

(7) 権利擁護・虐待防止委員会(兼身体拘束適正化委員会)

① 目的

- ・第5次中期計画「すぎのこマインドの浸透」の遂行
- ・身体拘束適正化の指針の運用。
- ・令和5年度権利擁護虐待防止計画(法人全体、各部)の遂行と進捗管理
- ・権利擁護虐待防止クレドの浸透
- ・意思表示(表出コミュニケーション)支援の実施
- ・法人内で虐待事案等が発生した場合の共有と意識の確認

② 令和6年度法人全体の権利擁護虐待防止計画

- ・全ての事業所で権利擁護虐待防止計画を作成し、計画に沿った取り組みを実施し委員会にて進捗管理を行う。
- ・表出コミュニケーション支援を推進する等ご利用者の意思を尊重した支援を行う
- ・スタッフ間の豊かなコミュニケーションを推進することで、孤立防止やメンタルサポートの強化を図る。
- ・ご利用者と積極的に地域に出ることや、SNSを活用するなど、地域の方のポジティブな障害理解につなげる。
- ・委員会の開催方法や構成など参加メンバーで検討し、より良い委員会を目指す。

- ・権利擁護虐待委員会の取り組みを「suginokobrand」として、今後も「みんなでつくる法人」として運営を検討していく。

③令和6年度権利擁護虐待防止責任者および委員

部署名	責任者	委員
萩の杜	池田裕哉、松本浩則	勝部
レジデンスなさはら	足立優奈、濱田あゆみ 小久保杏耶	前田、坪内、成田、鳥本、木村、豊野、村上、伊名岡
レジデンスなさはら2丁目	竹内久美子 野条さりな	石田、塩見
レジデンスなさはらもとまち	井出帆香	福田、大西、伊藤、喜多、今村 尾池、橋本、矢野、辻本
ジョブサイトひむろ	森田耕平	松本早代 丸山美桜
ふれいす Be	松本理恵	竹内恒、小路、原田、南園、西垣、吉見、辻内、海部、中辻、平田、中山、及川
ジョブサイトよど	桑原 涼	西澤美咲 下、原田 桶谷幸祐、中尾尚生
ジェイブランチよど	久保英樹	岸本麻希 小山和希、小葉竹真帆、田中愛唯
レジデンスよど 十三ホーム 三津屋北ホーム	高木萌美 森口有希	古賀さくら
ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ	安田麻美 森田典子	星明聡志
LaLa-chocolat TAKATSUKI	山田 優	富、中田、星明
児童発達支援部 will	新谷沙弥香	宮脇彩香
児童発達支援部 Link	薬師寺朱南	瀬川果穂
児童発達支援部 an	奥平健正	向井、西野、西口
豊中市立児童発達支援センター 一通所部門	岩城 望	米倉充音
地域医療支援部	小林哲理	神垣律子
相談支援・人材育成研修	竹内 恒	渡邊直美
アクトおおさか	岡あゆみ	奥野加奈子
法人事業部	佐々木寛昭	佐々木寛昭
外部委員	河坂昌利	
委員長	平野貴久	

③令和6年度委員会経過および検討内容

<p>▼第1回定例会 4月25日(木) 29名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度権利擁護虐待防止計画の発表と決意表明 ・各事業所の虐待防止責任者と委員の確認 ・各部の報告(トピックス) ・令和6年度委員会の日程等の確認 ・生活支援感染時のゾーニングや施設対応について
<p>▼第2回定例会 6月27日(木) 33名参加(オブザーバー参加3名含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認と情報共有(トピックス) ・ミニ研修:「令和6年度権利擁護・意思決定意思確認に関する法改正」の件
<p>▼第3回定例会 8月22日(木) 28名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認と情報共有(トピックス) ・強度行動障害のご利用者からの他害・破壊行為等(カスタマーハラスメント等)について ・法人クレド振り返りチェック実施スケジュールの確認

<ul style="list-style-type: none"> ・9月～10月初旬クレド振り返りチェックを配布。 ・10月末までに回収し、集計を行う。
<p>▼第4回 定例会 10月24日(木) 31名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認と情報共有(トピックス) ・ジョブジョイントおおさかの宅配業者の運転手の方への謝罪支援についての意見交換。 ・クレド振り返りアンケート結果から浸透度について検証。 ・1月新人研修のファシリテーターについて
<p>▼臨時権利擁護虐待防止委員会 12月2日(月) 21名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれいす Be ご利用者他害に対するの制止についてご家族が通報された案件 ・GH とんだ世話人さんのご利用者に対する案件 <p>※経過報告、質疑応答・意見交換、今後の再発防止等について検討。 →上記の委員会での意見交換や検討内容等を虐待防止センターに報告。</p>
<p>▼第5回定例会 12月26日(木) 29名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認と情報共有(トピックス) ・ふれいす Be、GH とんだの通報案件のその後の経過や状況報告 ・ジョブジョイントおおさかの案件のその後の対応(通報対応) ・身体拘束適正化について(同意書等の件)
<p>▼第6回定例会 2月27日(木) 27名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認と情報共有(トピックス) ・ふれいす Be、GH とんだの通報案件のその後の結果や支援について ・身体拘束適正化について(同意書について等) ・意思決定支援のガイドライン作成等のついて ・次年度の権利擁護虐待防止計画策定のスケジュール確認

(8) 法人全体研修(職員内定者研修含む)

研修日	研修内容	発表者・報告者・担当者
4月20日 高槻城公園 芸術文化劇場	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度年度方針について ・第5次中期計画の進捗報告 ・PECS 実践報告会 ・資格取得表彰、新入職員紹介 職員交流研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・松上理事長 ・経営戦略企画室 ・人材確保育成支援室 ・ふれいす Be、レジデンスなさはら ・法人事業部 ・研修企画運営 PJ
7月29日 オンデマンド研修	<ul style="list-style-type: none"> ・業務貢献表彰最優秀賞投票 ・人権研修 ・感染症対策研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務貢献表彰優秀賞者(アクトおおさか、will、レジデンスなさはら、なさはらもとまち) ・権利擁護虐待防止委員会 ・医療連携推進室会議

11月9日 ウェビナー 研修	北摂杉の子会セミナー2024 『強度行動障がいのある方々の 豊かな暮らしの実現と人材育成 を考える』 ・基調講演 ・実践報告 萩の杜 なさはらもとまち 法人本部 総評および講義 ・鼎談	・古川慎治氏（のぞみの園） 加藤潔氏（はるにれの里） ・川村萌華 喜多竜也 平野貴久 中山清司氏（自閉症 e サービス全国ネット） ・古川慎治氏 志賀利一氏（PDDサポートセンターグリーンフォレスト） 松上利男
2月22日 高槻城公園 芸術文化劇 場/高槻市 立生涯学習 センター	・BCP 研修 ・階層別研修 1～3 年目「障害特性の理解 とアセスメント」 4～主任「リーダー研修」 管理職「マネジメント研 修」	・真壁賢一氏（災害ボランテ ィアチーム DARST） ・新谷沙弥香、竹内恒 大塚寿子氏（ベルデさか い） 森川宗貴氏（株式会社学 庵）

(9) 新入職員研修

研修日	研修内容	講師
5月10日	対人援助専門職とは？	松上理事長
6月7日	自閉スペクトラム症の特性理解について	児童発達支援部
8月9日	労務管理・人事考課・予算等について	法人事業部
9月6日	障害福祉制度の概要について 個別支援計画の考え方について	地域生活支援部
10月11日	保護者対応、面談対応について	アクトおおさか
12月6日	コミュニケーション、チームビルディングについて	人材確保育成支援室
1月10日	権利擁護、虐待防止について	権利擁護虐待防止委員会
3月7日	1年間の振り返りと次年度に向けて	人材確保育成支援室

2. 法人事業部

(1) 機関誌

発行月	主な内容	発行部数
4月	令和6年度方針、業務貢献表彰報告	3,000
7月	韓国障害福祉事業所視察、業務貢献表彰報告	3,000
10月	業務貢献表彰報告	3,000

1月	理事長新年のあいさつ、ジョブサイトひむろ新築第2期工事竣工、北摂杉の子セミナー報告、業務貢献表彰報告	3,000
----	--	-------

3. 萩の杜

(1) 萩の杜施設入所：生活介護

①萩の杜全体会議

i) 事業計画や予算の共有、進捗確認

②生活グループ支援会議（施設入所支援）：毎月1回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項を共有、検討

ii) 業務等に関する事項を共有、検討

iii) 利用者支援に関する事項の共有

③ふれっと支援会議/ふれっとなさはら支援会議（生活介護）：毎月1回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討

ii) 業務等に関する事項を共有、検討

iii) 利用者支援に関する事項の共有

IV) レクリエーションの企画、立案、評価

④リスクマネジメント委員会：毎月1回開催

i) ひやりはと報告及び事故報告内容共有、意見交換

ii) 再発防止策等の検討

⑤安全対策委員会（萩の杜家族会と協同）：コロナ禍のため、開催できず

i) ひやりはと報告及び事故報告内容共有、意見交換

ii) 再発防止策等の検討

(2) 保健看護

①保健衛生衛生業務

i) 身体測定（年2回）、体重測定（月1回）、血圧測定（有所見者のみ月1回）

ii) 健康診断

a. 内科健診（年2回）前期：5月29日・6月26日 後期：11月12日

②保健看護業務

i) 疾病予防

a. 内科嘱託医（なかじま診療所 中嶋医師）との連携

b. オーラルヘルスケアサービス口腔衛生指導（希望者のみ・毎週水曜日）

c. かしわせ歯科クリニックによる歯科治療（希望者のみ・毎週水曜日）

d. 看護処置

ii) 精神科相談（毎月1回金曜日：啓友クリニック 西山医師）

iii) 受診件数（上記精神科相談・オーラルヘルスケアサービスを含む）

受診科	件数	受診科	件数
内科	474	泌尿器科	11
外科	5	小児科	10
整形外科	7	精神科	420
脳神経内科	12	認知症外来	6
眼科	6	てんかん発作外来	150
耳鼻科	5	歯科	518
皮膚科	28	入院	6
婦人科	1	検査	7
消化器科	5	救急	1

合計：1,672件

※上記入院期間及び入院先

期間	病院	診療科
7月9日～8月29日	高槻病院・藍野病院	外科

9月3日ー11月6日	済生会茨木病院	内科
1月21日ー1月31日	みどりヶ丘病院	脳神経内科
1月25日ー入院中	藍野病院	内科・皮膚科・精神科
1月31日ー1月31日	高槻日赤病院	血液内
2月10日ー2月19日	大阪医科大学付属病院	耳鼻科
2月20日ー2月20日	大阪医科薬科大学病院	救急入院

延べ264日

(3) 栄養管理

①給食会議

- i) 利用者に関する報告
- ii) 食事内容等に関する報告

②その他

- i) 偏食等の利用者個別配慮調整

(4) 避難訓練

- i) リスクマネジメント委員会内にて避難訓練マニュアルの確認
(10月21日・12月24日)

4. 短期入所 (ふれいす Be)

(1) 利用実績

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	合計
4月	65	97	28	3	128
5月	67	100	17	1	118
6月	68	110	26	4	140
7月	70	110	26	3	139
8月	63	96	20	4	120
9月	67	96	17	2	153
10月	69	108	17	5	130
11月	68	100	17	3	120
12月	69	100	17	1	117
1月	62	93	16	2	111
2月	60	93	16	2	111
3月	71	105	18	3	126
合計	799	1639	264	34	1475

5. ジョブサイトひむろ

(1) 生活介護係

- ① ジョブサイトひむろ運営会議：毎月1回開催
 - i) 利用者関係等、各グループ報告
 - ii) 事故、ひやりはっと報告について
 - iii) 事業計画、予算の進捗確認
- ② ジョブサイトひむろ全体会議：不定期
 - i) 利用者関係等、各グループ報告
 - ii) 事故、ひやりはっと報告について
 - iii) 事業計画、予算の進捗確認
- ③ リスクマネジメント委員会：不定期
 - i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換

- ii) 再発防止策等の検討
- iii) 人権研修
- ③就労支援事業担当：不定期
 - i) 新規受注作業の検討
 - ii) 作業評価シート（賞与支給）の進捗確認
 - iii) 工賃規程改定についての検討
- ④広報
 - i) 法人機関紙掲示板 年4回掲載の実施、すぎのこいいね年1回掲載の実施
 - ii) インスタグラムの開設、運営
- (2) 医務栄養
 - ①医務会議/感染症対策委員会：毎月1回開催
 - i) 健康、予防プログラムの進捗確認
 - ii) リハ加算の進捗確認
 - iii) 真野先生巡回相談：年間13回
 - a. 職員向け研修：年間3回
 - b. 医務・事例検討会：年間5回
 - c. 内科健診
 - d. 新型コロナウイルス予防接種
 - e. インフルエンザ予防接種
 - f. ご家族向け勉強会
 - g. ご家族、職員の相談
 - iv) 健診オプションについての検討、ご家族との共有
 - v) 予防接種の際の医療同意の啓発
 - vi) その他医療に関わる案件の検討
 - ②健康診断
 - i) 利用者健康診断
 - 4月29日（月）9:00～11:30（医療法人桜峰会 香川クリニック）
 - （内容）身体測定、問診、血圧測定、胸部X線直接撮影、尿検査、血液検査
便潜血検査、甲状腺機能検査、がん腫瘍マーカー検査（希望者のみ）
 - ii) 職員健康診断
 - 2024年10月～2025年1月（愛仁会総合保健センターにおいて実施）
 - ③栄養
 - i) 給食会議：不定期
 - a. ご利用者に関する報告
 - b. 特食メニューの検討
- (3) 助成金事業
 - 日本財団より送迎車セレナの助成を受ける。

6. ふれいすBe 通所部門

(1) 日中活動

- ①常勤支援員ミーティング：毎月1回開催（常勤支援員全員参加）
 - i) ふれいすBe 各AR間の連絡調整
 - ii) 内部研修の企画運営
- ②リスクマネジメントミーティング：毎月1回開催（常勤支援員全員参加）
 - i) 事故報告、ひやりはっとの確認
 - ii) 権利擁護虐待防止の確認
- ③各AR会議：月1回程度
 - i) 個別支援計画進捗確認
 - ii) 支援員ミーティング事項の報告
- ④内部研修

日程	内容	講師
----	----	----

5/17	コミュニケーション研修	中山清司氏
6月～7月	てんかん発作について	Special learning
8/24	PECS 研修&実践報告	門真一郎氏（動画）
10/28	虐待防止研修	
11/30	コミュニケーション実践報告	
12/5	感染症予防研修	岡野看護師
1/28	実践報告会（萩の杜共同）	中山清司氏

(2) 保健看護

①健康診断

- i) 利用者健康診断 前期：2024年6月1日（土）
後期：2023年10月28日（月）
- ii) 職員健康診断 2024年10月～2025年3月 愛仁会総合保険センターにて

②予防接種

- i) インフルエンザ予防接種
10月28日（月）、11月18日（月）

(3) 広報

- ①Be どうしの発行（年3回）
- ②法人機関誌 掲示板、の掲載実施

(4) CafeBe

地域の利用促進

- i) 地域貸切事業
 - a. クラフトアートマルシェ（4月20日）
 - b. 和太鼓コンサート（10月12日）
 - c. はにわキッチン（子ども食堂）（11月2日）
- ii) 法人内貸切事業
 - a. 韓国視察見学の振り返り、懇親会（5月23日）
 - b. 杉の子会セミナー 配信（11月9日）
 - c. 内定者ご家族説明会（3月1日）

7. 地域生活支援部レジデンスなさはら

1) レジデンスなさはら2丁目

①会議

- i) 個別支援ミーティング：毎週1回
 - ・ご利用者の特性や情報の共有と支援の統一
 - ・個別支援の進捗確認、検討
 - ・個別支援計画の策定会
 - ii) 夜勤者ミーティング会議：半年ごとに開催（年3回）
 - ・夜間支援員と日中支援員の情報交換
 - ・夜間対応の状況確認と検討
 - ・夜間の火災や災害想定をした場合の連絡体制等
 - iii) とんだ世話人会議：2か月に1回開催。
 - ・ご利用者の情報共有
 - ・世話人間の連絡調整
 - ・とんだ業務全般に関する検討、助言、調整、設備・備品の確認
 - iv) 連携会議
 - ・ひむろとの連携会議7名年間14回
- ②保健衛生業務
- i) 体重測定（最低月1回）
 - ii) 利用者健康診断
 - iii) 内科健診（年2回）基本的に日中活動先で受診

- iv) 職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）
- v) 清掃週間
 - ・年間 3 回、集中的に清掃・環境整備に取り組む週間を設定

③保健看護業務

- i) 食事、栄養管理にて、疾病予防
- ii) オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導
（希望者のみ・基本毎月 1～2 回）
- iii) 各医療機関への受診
 - ・令和 5 年度も年間 130 件以上の通院件数となっている。
（オーラルヘルスケアサービスを含むと約 300 件）
 - ・高齢化が進み、加齢による認知症の管理をしている方や、脳梗塞後の経過観察の方もおられ、さらに高齢化に対応した支援が求められて来ている。

④避難訓練

- ・6 月、3 月に実施。

2) レジデンスなさはら

①会議

- i) 番館ミーティング：週 1 回
 - ・ご利用者の共通認識
 - ・個別支援の進捗確認、検討
- ii) 夜間ミーティング：年 2 回
 - ・夜間対応の状況確認と検討
- iii) なさはら連絡会（毎月第 4 火曜日）
 - ・日勤帯職員が参加し法人からの情報提供、共有。
 - ・予算、事業計画、アクションプランの進捗確認、検討

②保健衛生業務

- i) 体重、バイタル、SPO2 の測定（毎日もしくは週 1 回）
- ii) 利用者健康診断
 - ・内科健診（年 2 回）基本的に日中活動先で受診
- iii) 職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）

③保健看護業務

- i) 往診の受診
- ii) オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導
（希望者のみ・おひとり基本毎月 1～2 回）
- iii) 各医療機関への受診
 - ・今年度も年間約 270 件を超える通院件数となっている。
 - ・高齢化の兆候がみられ、女性利用者の婦人科系が増えている

④避難訓練

- ・4 月に 2 回実施。通報訓練、スプリンクラーの確認、消火訓練を行う。
夜間帯でも実施していた。

3) レジデンスなさはらもとまち

①会議

- i) もとまちミーティング（毎週開催）
 - ・個別支援計画に基づく支援の遂行。支援の調整や対応の統一。進捗管理。
 - ・収支状況の把握、タイムリーな案件（コロナ等）についての共通認識と対応等々
 - ・「もとまち基本理念」の振り返り
 - ・事業計画、アクションプランの遂行
- ii) 夜勤者ミーティング（年 4 回開催）
 - ・個別支援の状況を夜間支援員と確認し、共通認識と対応の統一を図る
 - ・夜勤業務の役割分担と遂行
 - ・夜勤者同士の情報交換

iii) サービス担当者会議

- ・生活環境が大きく変更になったことによる状態の確認と共有
- ・ご利用者によっては医師もご参加いただき薬の狙いや効果についての共有と今後の方針の確認
- ・ご本人に必要なサービスの調整と支給決定につなげる

②保健衛生・通院等

- i) 日常の健康管理、ご家族と連携による服薬管理。
- ii) 体重測定（最低月 1 回）
- iii) 利用者健康診断
 - ・内科健診（年 2 回）基本的に日中活動先で受診
- iv) 職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）
- v) 個別の通院同行（睡眠や食事等の課題のあるご利用者の共通認識と通院同行）

③避難訓練

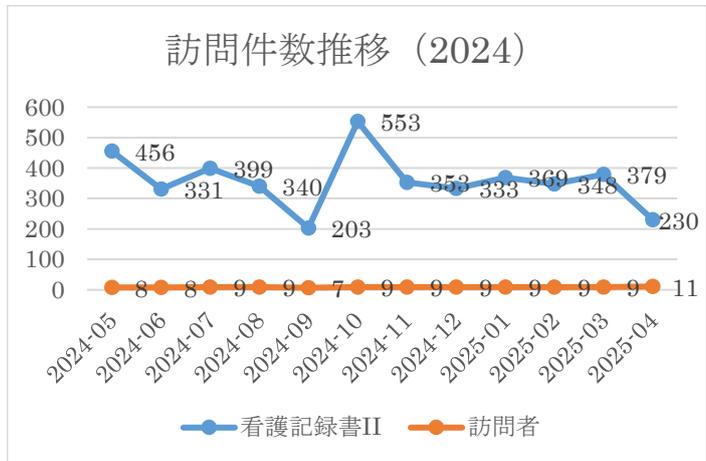
- ・9 月、3 月に実施。避難誘導訓練、消化訓練（シュミレーション）、通報訓練を実施。

8. 地域医療支援部

現在 155 人のご利用者に定期的に訪問を行っている。年間の実利用回数は約 4300 件であり、凡そ一月当たり 360 件程度安定して訪問している。昨年の年間の実利用回数は 3419 件であり、一月当たりでは 285 件であったため、2024 年度は大幅に訪問数を増やすことができた。

2024 年度は事業目標として収支改善を掲げ、定期的なミーティングでの収支報告を行う。訪問体制の見直しと個々人に応じた目標設定と 1on1 による定期的な状況確認が功を奏した。2024 年度は事業収入を 4,743 万円確保できた（昨年は 3,894 万円）。

年月	訪問件数	訪問者数
2024-05	456	8
2024-06	331	8
2024-07	399	9
2024-08	340	9
2024-09	203	7
2024-10	553	9
2024-11	353	9
2024-12	333	9
2025-01	369	9
2025-02	348	9
2025-03	379	9
2025-04	230	11



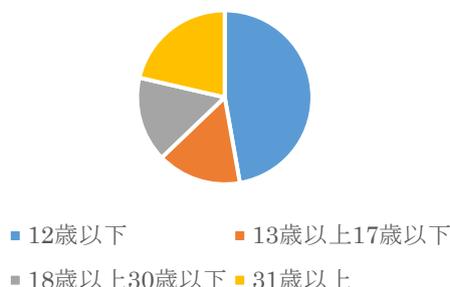
昨
用
く
の

従来のステーションは最も人数
たサービス提供をしていく。

2025 年 3 月訪問実績	
訪問数 379 件 (昨年は 350 件)	最若 3 歳、最高 70 歳 (昨年: 最若 4 歳、最高 54 歳)
12 歳以下	179 件 (昨年 180 件)

13歳以上 17歳以下	59件（昨年 53件）
18歳以上 30歳以下	60件（昨年 60件）
31歳以上	81件（昨年 57件）

2025.3月利用者年齢層別



9. アクトおおさか

(1) 大阪府発達障がい者支援センター運営事業

①発達障がい児（者）及びその家族等に対する相談支援と情報提供（家族等に対する家庭等での発達支援に関する相談支援と情報提供含む）

- ・個別支援：実支援人員 998人、延支援件数 1,195件
- ・個別支援のための調整会議：延実施回数 1回、延参加機関数 3機関

②発達障がい者及びその家族等に対する、就労に関して必要な相談等による支援

- ・個別支援：実支援人員 103人、延支援件数 378件
- ・個別支援のための調整会議：延実施回数 6回、延参加機関数 17機関

③関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修

- ・計 24回、延参加者数 1,074人

④連絡協議会及び調整会議の開催

- ・発達障がい者支援センター連絡協議会：延実施回数 2回、延参加機関数 30機関
- ・関係機関との協議会：延実施回数 14回、延参加機関数 156機関

(2) 発達障がい者地域支援力向上事業

市町村への直接支援（包括的な支援体制づくりへの助言）

a. 実施内容

アクトおおさかに配置している地域支援マネージャーが、市町村（自立支援協議会など）の会議と協働し、課題の整理や、事例検討を通じた支援体制についてのコンサルテーションを実施した。市町村の課題や現状に即したオーダーメイド型研修を実施し、発達障がい支援の核となる人材の育成や多分野での連携体制の構築等について助言を行った。

b. 実施市町村/対応件数（打合せ、研修、事務連絡等）

市町村	事業調整担当機関	対応件数
茨木市	発達支援課、あけぼの学園、相談支援事業所ゆうあい、相談支援センターリーベ	43
摂津市	こども政策課、こども家庭相談課	36
門真市	障がい福祉課、門真市障がい者基幹相談支援センターえーる、門真市障がい者相談支援センタージェイエス、地域生活支援センターあん、門真市社会福祉協議会	33

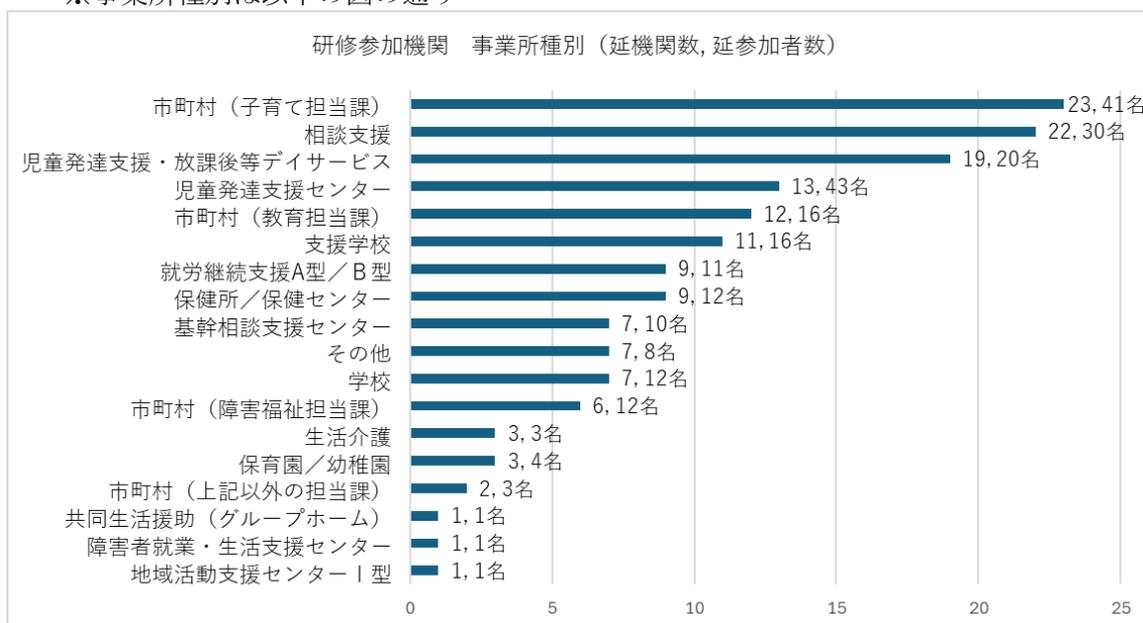
羽曳野市	障害福祉課、四天王寺悲田院児童発達支援センター、支援センターはる	34
泉佐野市	児発達支援センター、学校教育課	50
合計		204

c. 研修や取り組み内容

内容	延件数
Q-SACCS を活用した地域の課題整理	9
発達障がいの基礎講座	2
支援の引き継ぎや連携、ネットワーク構築	2
事例検討	2
合計	15

d. 延研修参加機関数、延参加者数：延機関数 156機関、延数 244名

※事業所種別は以下の図の通り



(3) ペアレント・メンター事業

①ペアレント・メンターの登録にかかる事務及び活用にかかる調整並びに大阪府メンター活動へのスーパーバイズ

- ・ペアレント・メンター派遣回数 29件、延参加者数 1,388人
- ・派遣等にかかる調整件数 1,845件

②ペアレント・メンター登録者のための基礎研修及びペアレント・メンター交流会の実施

- ・実施回数 計2回

③大阪府ペアレント・メンター事業運営委員会の実施

- ・実施回数 計2回

10. あんだんて・wish

(1) 委託相談

	実人数	延人数	新規相談
あんだんて (高槻市知的障害者生活支援事業)	187	5642	72
wish (高槻市知的障がい児相談支援事業)	80	572	66

- ・市内相談支援事業所連携会議 事務局として企画運営（新人相談員の会も合わせて企画実施）
- ・高槻市障がい児相談支援事業所連絡会及び勉強会（行政（発達支援事業所）と市内の障がい児相談支援事業所と情報交換及び勉強会）
- ・自立支援協議会の参画
 - ケアマネージメント連絡会（年2回）
 - 相談支援部会（年8回・相談支援チーム 課題整理チーム）
 - 子どもワーキング（2ヶ月/1回＋高槻支援学校での校内研修・成人のサービスと制度の説明会）
- ・医療的ケア児支援の協議の場（年3回＋医療的ケア等の支援に係る研修会）
- ・通所事業所との座談会（年1回）
- ・教育センターとの交流会（年1回）
- ・高槻支援学校福祉相談会（年1回）
- ・三島医療圏発達障がいネットワーク情報連絡会（年/3回＋発達障がい多職種連携支援を考える研修）

(2) 計画相談

実績	契約者数	計画	モニタリング
あんだんて	184	166	431
wish	65	59	61

- ・あんだんて：新規 3 件 終了 10 件（高齢者施設含む施設入所/死去/転居）
- ・wish：新規 12 件 終了 3 件（18歳到達/サービス利用終了など）
- ・インターバル実習受け入れ 2 件

(3) その他

地域との連携の取り組み

- ・茶話会「子が一人暮らしをしている親の茶話会」
→6名参加（内2名は一人暮らし検討中の方）

業務効率化

- ・業務の効率化を図るため ICT化（グーグルドライブを利用した計画書の共有、zoomの活用など）

1 1. ジョブサイトよど、ジェイ・ブランチよど

(1) ジョブサイトよど

①5 階

- ・余暇活動について、ご利用者や家族のニーズを聞き取り、更なる充実を図った。
- ・母子家庭のご利用者家族が入院になった際、関係機関と連携しグループホーム入居などの支援を進めた。また、自主通所中の課題があったご利用者についても、家族や家庭と連携して送迎付き事業所への移行を進めた。
- ・一部ご利用者について、医療との継続した連携関係維持と新たな関係構築を進めた。

②4 階

- ・ご利用者に希望する余暇活動の聞き取りを行い、新しい活動を取り入れた。
- ・サービス担当者会議を実施し、ご家族・グループホーム・相談支援員・ヘルパーとの情報共有を行い、今後の支援の進め方等を検討した。
- ・通院同行を行い、ご利用者の事業所での様子を報告し服薬調整を行った。
- ・病院面談を実施し、ドクターとの連携を図り、服薬調整を行った。

③3 階

- ・社会資源の活用やご利用者の外出活動の幅を広げることを目的として、神津神社で開催されているフリーマーケット(十三市)に継続して参加した。

- また去年の11月から月に1回図書館に行く活動を開始した。
- 毎月テーマに沿った創作活動を実施し、ご利用者の余暇活動の幅を広げた。また年度末には完成した作品で2025年度のカレンダーを作成しご利用者・ご家族へ配布した。
- サービス担当者会議に参加し、ご家族・相談支援員・グループホームと情報共有を行い今後の支援について話し合いをおこなった。

④2階

- 社会資源の活用やご利用者の外出活動の幅を広げるため、神津神社で開催されているフリーマーケット(十三市)への参加を継続している。また、徒歩圏内で実施された関西中央福祉会主催の催し物や阪急梅田百貨店でのチョコレートエキスポに行くなど、初の試みも積極的に行った。
- 事業所内の交流の意を込めて、長期休み前に各フロアを跨いだレクリエーションを行った(任意参加)。
- 生活習慣病予防の一環として運動の時間を増やしている。また、ご家族やご利用者のニーズもあり、淀川温水プールの活用や淀川河川敷でのウォーキングなど外での運動時間も取り入れた。
- 2名のご利用者が新たに相談支援事業所と契約をされ、相談員と定期的に情報共有を行い、関係構築とサービスの質の向上に努めた。

(2) ジェイ・ブランچよど

①受注作業

- 昨年度と同様に絵の具やダイレクトメール、箱折りの受注作業を中心に、年間を通して継続的に作業の提供を行なうことができた。
- 絵の具の受注作業をいただいている会社からは、これまでにお問い合わせしなかった新しい作業も受注させてもらえるようになった。
- 年度末が近づくにつれ一部の受注作業の量が急増したが、他の受注作業を調整することで対応できた。

②施設外就労

- <津田紙工>…7~9月半ばまで閑散期のため作業中止となり、この間は受注作業としてブランチ内で津田紙工の作業を行った。また再開後、ご利用者一名が長距離歩行が困難となったご利用者が津田紙工での作業を断念することとなった。
- <淀川区社会福祉協議会トイレ清掃>…火曜日/木曜日にそれぞれ別のご利用者が作業を担当。ある程度安定して作業を行うことができた。
- <浜崎鍼灸整骨院清掃>…スリッパの並べ方に課題があったご利用者が作業指導担当者のサポートで課題を克服できた。
- <河端ビル/堀内ビルの清掃>…午後は担当者が別の用事で長時間現場を抜けることがあっても自立して作業を行うことができていた。

12. レジデンスよど

(1) 三津屋北ホーム

①利用状況

- 9名のご利用者は安定して利用されており、月1回の土日宿泊への参加が不定期だったご利用者が継続して参加してくださっている。宿泊が難しいご利用者(1名)については関係性作りのため、職員が日中活動先にも訪問しご本人に合う頻度を増やし、昨年度と比較すると来所日数が増えている。
- ご家庭の都合で帰省できないご利用者については臨時で開所し対応した。

②取り組み

- クリスマスやバレンタイン等季節に合わせたイベントを実施した。クリスマスは昨年度に引き続き豪華な夕食を提供したり、ご利用者と一緒に飾り付けも行った。また今年度は近所の喫茶店に依頼してクッキー等お菓子の詰め合わせをプレゼントとしてご利用者にお渡しした。バレンタインでは

- 夕食にチョコレートをつけて提供した。
- 毎月1件以上を目標にInstagramを投稿した。内容は行事などのイベントごとやご利用者の日常などが中心であった。
- 日中活動先と協力しながら通院同行の機会を作り、医療連携を図りながらご利用者の安定した生活のサポートに努めた。
- 週末宿泊時のご利用者の余暇活動として、新たに公園やスーパー等地域資源の開拓・活用を行った。
- 日々の生活の中で、洗濯機を回す取り組みや帰所した際の荷物を運ぶなど新しくご自身でできることを増やせた。

(2) 十三ホーム

①利用状況

- 利用者4名は安定して利用されているが、2名の利用者が令和5年度よりも利用日数が減っている。グループホームへの不安等が理由として考えられ、現在日中活動先とご家族と共に利用日数が増えるよう取り組みを行っている。
- 昨年度、グループホームの宿泊に消極的だったご利用者の宿泊日数が少しではあるが増えた。

②取り組み

- 十三ホーム開所1周年を記念してクッキングを実施した。また、昨年度に引き続き、季節の行事に合わせて食事やラッピングしたお菓子を提供した。協力していただけるご利用者には、こいのぼりや雪だるまなど季節に合わせた装飾品の制作もしていただいた。
- 今年度は誕生日当日に外出が可能なご利用者は、スタッフと一緒にケーキの買い出しを行った。
- 7名中5名のご利用者が相談支援を利用されていなかったため、ご家族に相談支援を利用するメリットについて説明を行い、5名全員が相談支援事業所の利用を開始した。
- 通院が困難なご利用者について、相談支援員と連携しながら居室にて訪問歯科診療を受診していただいた。

13. 就労支援部

(1) ジョブジョイントおおさか

①プログラム

今年度もコース別プログラムを実施した。内容は以下のとおり。

就労移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・デスクワークコース ・作業コース
自立訓練 (生活訓練)	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップコース ・チャレンジコース ・個別コース

②企業見学

14社の企業を見学させていただき、78名の利用者の方が参加した。

③特別プログラム

利用者ニーズに合わせて、以下の特別プログラムを開催した。

- ・5月11日(土)先輩のはなし+実習報告会
- ・6月4日(火)阿倍野防災センター
- ・6月19日(水)着こなしセミナー(講師:紳士服のはるやま)
- ・11月29日(金)身だしなみ講座(講師:資生堂)
- ・12月18日(水)高槻市出前講座「防災・減災」(講師:高槻市)
- ・1月27日(月)大切なお金の話(講師:三井住友トラスト・資産のミライ研究所)

④就職実績

(株) あきんどスシロー スシロー枚方招提店
山崎製パン (株)
キューピータマゴ (株)
社会医療法人警和会 大阪警察病院
(株) 日米クック
(株) FOOD & LIFE COMPANIES
三井住友信託銀行 (株)
医療法人仙養会北摂総合病院
(株) あきんどスシロー
(株) JR 西日本あいウィル
(株) NTT ルセント関西支店京橋第二センタ
サンスター (株)
(株) MonotaRO
NPO 法人自閉症 e スタイルジャパン
NPO 法人自閉症 e スタイルジャパン
(株) ベルシステム24
ANA ウィングフェローズ・ヴィ王子 (株)
(株) ライフコーポレーション
社会福祉法人北摂杉の子会
(株) エムツープレスト

⑤働くチカラ PROJECT

今年度も大学生向け就活準備プログラム（働くチカラ PROJECT）を開催。年間の登録者（学生さん）は、15名であった。

講座、インターンシップ、個別相談のプログラム内容等は以下のとおり。

<講座>

- ・8月7日（水）自己PRを作ってみよう
- ・9月4日（水）やってみよう！面接練習
- ・11月30日（土）障がい者雇用で働く「先輩のはなし」
- ・1月18日（土）就活や就職後も使える！コミュニケーション講座①(基礎編)
- ・3月5日（水）就活や就職後も使える！コミュニケーション講座②(応用編)

<インターンシップ>

3名の学生さんが5日間のインターンシップに参加。

<個別相談>

7名の学生さんが個別相談を利用。

⑥企業支援（助成金事業）

職場適応援助者助成金（ジョブコーチ）と雇用相談援助助成金を活用。

雇用障害者への適応支援と採用前支援の企業コンサルに取り組んだ。

⑦実践報告会

11月16日（土）に第7回実践報告会を開催。60名の方にご参加いただいた。

当日のプログラム概要は以下のとおり。

◆第一部 基調講演

「発達障害のある人の特性理解と就労支援 合理的配慮と過剰適応の視点も交えて」
よこはま発達クリニック 副院長 宇野 洋太 先生

◆第二部 実践報告

- ・介護助手で働く原さん(介護老人保健施設箕面グリーンビィラ)
- ・事務職で働く高濱さん(株式会社ニッセイ・ニュークリエーション)
- ・店舗スタッフとして働く光久さん(株式会社ライフコーポレーション)

◆第三部 質疑応答

宇野先生、第二部の登壇者

(2) LaLa-chocolat TAKATSUKI

①作業活動

- ・厨房：商品の袋詰めや計量作業、型抜き、シーラー、ラベル貼り等
- ・施設外就労：
 - 特別養護老人ホーム入所者の洗濯業務
 - グループホームの清掃（浴室掃除、フロア掃除機、モップがけ、窓ふき、トイレ・玄関掃除等）
 - リサイクルセンターでの部品分解・分別業務
- ・ステップ：受託作業（一斗缶キャップの組立て、箱の仕切り折り、封入、機械洗浄、チラシ折り、ポストティング、市役所花壇の整備など）

②売上と工賃

昨年度に続き、就労支援会計の売上・収入は前年度比でプラスとなった。
また、利用者工賃の平均月額も同じくプラスとなった。

詳細は以下のとおり。

- ・店舗売上：27,141,674円（前年度比103%）
- ・ステップ収入：3,632,456円（前年度比104%）
- ・2024年度平均工賃(月額)：29,804円（前年度：27,772円）

③レクリエーション

エンジョイクラブ（外出等を含むレクリエーション）、サタデーサロン（室内でのプチレクリエーション）を実施

エンジョイクラブ		
4/27	外食	17名
5/25	万博公園ピクニック	14名
6/22	カラオケ	15名
7/27	カップヌードルミュージアム	18名
8/24	夏まつり	16名
9/14	プラネタリウム	9名
9/28	芋ほり	14名
10/26	アニバーサリーパーティー	18名
11/9	高槻産業フェスタ	12名
12/21	クリスマスパーティー	14名
1/11	かるたづくり・新年会	17名
3/29	鉄道博物館・京都水族館	15名

サタデーサロン		
5/18	調理：箸巻き	8名
7/6	プラバン作り	5名
8/3	調理：フラペチーノ	6名
8/17	調理：アメリカンドッグ	7名
9/7	switchカラオケ	7名
11/2	缶バッジづくり	6名
12/7	switchカラオケ	6名
12/28	調理：年越しそば	6名
1/18	調理：おでん	6名
2/1	調理：巻きずし	3名
2/15	調理：フォンダンショコラ	7名
3/8	調理：たこせん	5名
3/22	switchカラオケ	8名

14. 児童発達支援部

【高槻地区】

【こども発達支援センターwill】

(1) 個別専門療育

① 利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
高槻市	21	23
茨木市	3	7
摂津市	1	2
島本町	6	1
合計	31	33

②療育の利用率

(契約事項)	児童発達	放デイ	全体
契約定員(名)	31	33	64
年間延べ回数	533	554	1087
年間必要回数	上限(一人:20回)		
1日定員	上限(1日10~12名)		

③【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4月	100%	97%	98%
5月	92%	90%	91%
6月	90%	91%	90%
7月	85%	82%	83%
8月	87%	88%	87%
9月	90%	83%	86%
10月	86%	83%	85%
11月	88%	87%	87%
12月	78%	80%	79%
1月	87%	78%	83%
2月	84%	82%	83%
3月	85%	90%	88%
月別平均	87%	85%	87%

④保護者研修

■日時：月2回、全10回、令和6年5月から令和7年3月まで実施

■会場：高槻現代劇場もしくはウェブ受講

【保護者研修申込者数】

保護者研修申し込み者は25名。

実践研修申し込み者は23名。

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業(大阪府委託事業)

①機関支援【機関支援】

機関支援	【実数】	17事業所	5学校
	【延べ数】	113事業所	14学校

○内訳

	訪問支援	研修形式	実習受入	見学受入	電話相談	オンライン
実事業所数	17	10		4		9
延べ事業所数	72	15		7		19
実学校数 (行政窓口含む)	5	2				
延べ学校数	12	2				

②圏域交流会（事業所対象） 1回実施

内容、実施場所、参加事業所数など

日時	場所	内容	参加事業所数	参加学校数	参加人数
2025年3月14日～30日	オンライン	機関支援実践報告	33		42

③情報交換会（学校対象） 2回実施

内容、実施場所、参加学校数など

日時	場所	内容	参加事業所数	参加学校数	参加人数
2025年2月6日(金)	高槻市教育センター	実践報告会		不明	
2025年2月19日(水)	島本第2小学校	実践報告会		不明	

(3) 高槻市巡回支援専門整備事業

①巡回内訳

巡回した施設・場	施設数	述べ巡回回数	助言など支援の 対象児童数	対象児童に対する助 言等支援の延べ回数
保育所	5 箇所	22 回	47 人	47 回
幼稚園	0 箇所	0 回	0 人	0 回
子育て支援拠点施設	6 箇所	6 回	68 人	279 回
児童厚生施設	1 箇所	1 回	1 人	1 回
集団検診	1 箇所	1 回	1 人	1 回
その他(子育て広場)	12 箇所	142 回	633 人	633 回
()	1 箇所	1 回	1 人	1 回
合計	23 箇所	232 回	490 人	959 回

②相談年齢内訳

年齢	(人)
0歳	73 (103)
1歳	203 (381)
2歳	108 (237)
3歳	62 (151)
4歳	25 (55)
5歳	12 (17)
6歳以上	7 (15)

年齢不明	
合計	490 (959)

【自閉症療育センタ Link】

(1) 個別専門療育

① 利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
枚方市	10	22
寝屋川市	3	0
四條畷市	2	2
交野市	1	9
大東市	1	1
合計	17	34

②療育の利用率

【契約内容】

(契約事項)	児童発達	放デイ	全体
契約定員(名)	17	33	50
年間延べ回数	327	568	895
年間必要回数	上限(一人:20回)		
1日定員	上限(1日10~12名)		

③【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4月	100%	100%	100%
5月	92%	96%	95%
6月	97%	98%	97%
7月	91%	94%	93%
8月	86%	83%	84%
9月	79%	85%	83%
10月	81%	78%	79%
11月	82%	75%	77%
12月	86%	80%	83%
1月	82%	79%	80%
2月	79%	84%	82%
3月	92%	88%	89%
月別平均	81%	67%	87%

④保護者研修

■日 時：月1回、全10回、令和6年5月から令和7年3月まで実施

■会 場：ウェブ受講・Link療育室（ワークショップの回のみ）

保護者研修申し込み者は22名。

実践研修申し込み者17名。

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業（大阪府委託事業）

① 機関支援	【実数】	22事業所	1学校
	【延べ数】	120事業所	4学校

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	研修形式	実習受入	見学受入	電話相談	オンライン
実事業所数	16	16	3				7
延べ事業所数	85	16	3				16
実学校数	1						
延べ学校数	4						

② 圏域交流会

事業所向け交流会 2回実施

内容、実施場所、参加事業所数など

	日 時	場 所	内 容	参加事業所数	参加学校数	参加人数
1	2025年3月14日～30日	オンライン	実践報告会	27		37
2	2024年11月14日(木)	枚方市総合文化芸術センター	センター等交流会	9		14

【児童デイサービスセンターan】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	39	13
合計	52	

※幼児40名、学齢児20名の定員であったが、大阪市内に希望登録しておられる方で今年度の利用を希望される方がいなかったため、定員に達しなかった。

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	39	13	52
年間延べ回数	780	260	1040
年間必要回数	上限 (一人: 20回)		
1日定員	上限 (1日10名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達 (%)	放デイ (%)	全体 (%)	療育回数 (回)
4月	97%	100%	95%	47
5月	91%	89%	93%	102
6月	100%	79%	93%	81
7月	94%	93%	91%	106
8月	92%	79%	92%	82
9月	95%	85%	90%	75
10月	84%	111%	91%	109
11月	89%	81%	84%	98

12月	89%	96%	95%	99
1月	102%	120%	92%	69
2月	102%	100%	89%	86
3月	93%	106%	88%	76
年間合計				1040
月別平均	94	95	94	

④保護者研修

療育時に動画で提供 年 10回

	参加予定 (人)	参加者 (人)	出席率 (%)
第1回	52	52	100
第2回	52	52	100
第3回	52	49	94
第4回	52	49	94
第5回	52	49	94
第6回	52	49	94
第7回	52	49	94
第8回	52	49	94
第9回	52	49	94
第10回	52	49	94

⑤保護者向け交流会

	日時	参加予定 (人)	参加者 (人)	出席率 (%)
第1回	2024年7月5日(金)	7	7	100
第2回	2024年9月27日(金)	4	4	100
第3回	2024年10月25日(金)	4	4	
第4回	2024年11月30日(土)	4	4	100
第5回	2024年12月13日(金)	3	3	100

【豊中市立児童発達支援センター通所部門】

(1) 親子通所事業

①親子Ⅱ(肢体不自由児のクラス)

【実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	12	12	14	14	14	14	14	14	14	15	15	14	244
療育日数	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	21	
延べ 利用児数	87	88	86	96	108	94	107	92	97	106	92	142	1195

- ・年度最終月(3月)の月初時点で、年長児2名、年中児4名、年少児1名、2歳児4名、1歳児3名が在籍。

【保護者座談会】

行事に向けて、保護者に対して事前に内容案を説明した上で工夫できることや準備について話し合うようにし、職員と保護者でともに行事を作り上げる、というプロセスに重点を置き、実施した。

月	テーマ	参加人数
4	センター利用のルールについて	6名
6	プール遊びについて	8名
7	センター外行事（マリンフード豊中スイミングスタジアムでのプール遊び）の企画案について	7名
9	マリンフード豊中スイミングスタジアムの下見動画視聴・説明	9名
10	センター外行事（マリンフード豊中スイミングスタジアム）について保護者と振り返り	7名
11	親子遠足（幼児：大阪伊丹空港キドキド、乳児：ふれあい緑地）について	8名
12	お楽しみ会（豊中北ライオンズクラブさん協力）について	8名
	病院受診するときの工夫、家庭での便利グッズについて意見交換	6名
1	今年度印象に残った出来事、今後の進路について意見交換	4名
	乳児クラス：就園について、デイサービスについて意見交換	3名
	【保護者主催】寺島歯科医院 松野医師による研修会	6名
2	【保護者主催】保護者同士で1年間の振り返り	7名
3	幼児クラス：就学に向けてこの1年間行ったことを共有	5名
	おわかれ会について	11名

②親子I（その他の児童のクラス（2歳児））

【実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	10	11	12	12	13	18	19	19	21	22	22	22	
療育日数	19	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	21	242
延べ利用児数	90	126	126	127	126	173	205	183	194	224	197	214	1985

※4月1日～3日（3日間）は個別面談を実施。8月13日～16日（4日間）・12月25日～27日（3日間）・3月24日～31日（6日間）は自由通所日。

【保護者向け研修会・座談会】

8月・10月：進路に関する座談会 延べ16名参加

12月：食事・栄養に関する座談会 8名参加

（2）単独通所事業

【実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	9	9	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	
療育日数	19	21	20	22	21	19	22	20	18	19	18	21	240
延べ利用児数	120	148	150	164	132	155	161	163	130	161	153	118	1755

※4月1日～3日（3日間）は個別面談を実施。8月13日～16日（4日間）・12月25日～27日（3日間）・3月24日～31日（6日間）は自由通所日。なお、12月23日・24日（2日間）は、インフルエンザA型流行のためクラス閉鎖とした。

・年度最終月（3月）の月初時点で、年長児2名、年中児2名、年少児7名が在籍。

【保護者向け研修会・座談会】

6月・7月：進路に関する座談会 延べ15名参加

9月：子育ての悩み、今後の進路に向けた座談会 9名参加

（3）就園後小集団親子教室・就学直後の児童を対象にした放課後等デイサービス事業

【就園後小集団親子教室・実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	22	22	24	25	25	25	23	24	24	24	24	24	286

延べ利用児数	24	32	39	35	18	39	33	33	24	28	31	31	367
保護者・関係機関との連絡調整	21	38	24	24	15	43	29	26	44	25	32	43	364
保護者・関係機関との相談、面談	1	3	2	16	5	24	13	9	6	23	25	17	144
ペア・小集団（保護者交流）回数	1	0	9	12	5	14	10	9	5	10	9	9	93

【就学直後の児童を対象にした放課後等デイサービス事業・実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	102
延べ利用児数	10	8	10	9	8	8	9	8	8	8	5	9	100
保護者・関係機関との連絡調整	11	11	15	21	19	12	15	7	19	22	17	11	180
保護者・関係機関との相談、面談	1	2	2	3	4	6	4	5	3	6	4	3	43
ペア・小集団（保護者交流）回数	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	2	23

【保護者向け研修会・座談会】

1	DVD 自閉症とともに～自閉症の人を理解する～
2	DVD 自閉症とともに～自閉症の人を支援する～
3	自閉スペクトラム症の特性の理解～社会性・コミュニケーション・想像すること～
4	自閉スペクトラム症の特性の理解～感覚面の特徴～
5	子どもにわかりやすく伝えるには～特性に合わせた工夫～
6	人との関りやコミュニケーション
7	評価について～子どもの“芽生え”をみつけよう～
8	困った行動の原因を考えてみよう

・保護者研修のテキストを配布し、個別に実施した。

（４）義務教育終了後児童を対象にした放課後等デイサービス事業

【実績】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約児数	0	0	0	2	2	3	4	4	5	5	4	4	33
延べ利用児数	0	0	0	2	6	13	14	9	15	11	8	7	85
保護者・関係機関との連絡調整	1	0	4	5	4	3	10	9	9	8	5	6	64
保護者・関係機関との相談、面談	2	8	5	8	2	0	2	7	3	3	2	0	19

（５）障害児一時預かり事業

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用児数	12	4	9	14	26	8	14	7	14	12	16	26	162

本年度新規契約児数・・・・・・・・・・22件

Ⅲ. 資料編

1. 利用者の概要

(1) 萩の杜

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	0	0	9	25	0	37
女	0	0	0	4	6	1	11
合計	0	0	0	13	32	1	48

②障がい支援区分/行動点数

区分	6			5			4		
行動点数	-9	10-17	18-	-9	10-17	18-	-9	10-17	18-
人数	0	27	12	4	4	1	0	0	0

③療育手帳等取得状況

障害程度	療育手帳				身体障害者手帳						
	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	46	2	0	48	3	2	3	1	1	2	12

(2) ジョブサイトひむろ

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	5	9	12	12	2	2	42
女	0	2	7	6	2	0	17
合計	5	11	19	18	4	2	59

② 障害区分別

区分	6		5		4		
行動点数	10-17	18-	-9	10-17	18-	10-17	18-
人数	11	17	2	13	11	4	1

③療育手帳取得状況

障害程度	療育手帳			身体障害者手帳						
	A	B	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
合計	57	2	59	3	2	0	0	2	0	7

(3) ふれいすB e

①年齢別・性別人員構成

【生活介護】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	2	7	24	2	1	1	37
女	1	9	7	1	0	0	18
合計	3	16	31	3	1	1	55

【就労継続支援 B型】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	1	8	7	1	1	0	18
女	0	1	7	0	0	0	8
合計	1	9	14	1	1	0	26

②障害支援区分/行動点数

【生活介護】

区分	6			5			4		3
行動点数	-9	10-17	18-	-9	10-17	18-	-9	10-17	-9
人数	16	6	7	2	5	7	8	2	2

【就労継続支援 B型】

区分	5	4	3	2	1	区分なし
人数	1	9	9	3	0	4

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳			
障害程度	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	計
人数	61	16	3	80	22	4	0	26

(4) 地域生活支援部レジデンスなさはら

【レジデンスなさはら 2丁目・グループホームとんだ】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	70代	合計
0	0	2	6	7	1	(男性 12名・女性 4名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	5	5	5	1	0	0	0

【レジデンスなさはら】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	1	5	12	1	1	(男性 12名・女性 4名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	18	2	0	0	0	0	0

【レジデンスなさはらもとまち】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	3	10	1	0	0	(男性 14名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	10	4	0	0	0	0	0

(5) ジョブサイトよど、ジェイ・ブランチよど、レジデンスよど

①年齢別・性別人員構成

事業所	性別	20代	30代	40代	50代	合計
ジョブサイトよど	男性	3	16	7		26
	女性	2	4			6
ジェイ・ブランチよど	男性	2	8	5		15
	女性	2	1	1	2	6
レジデンスよど	男性		8	7		15
	女性		1	1		2

②障害支援区分

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	未判定
ジョブサイトよど	15	11	3	3			
ジェイ・ブランチよど			5	1	3	1	11
レジデンスよど	9	3	4		1		

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			
	A	B	合計	1級	2級	3級	合計
ジョブサイトよど	24	6	30	1	1		2

ジェイ・ランチよど	1	15	16	1	4	1	6
レジデンスよど							

(6) 就労支援部

ジョブジョイントおおさか

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	0	0	0	(男性0名・女性0名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	0	0	0	0	0	0	0

ジョブジョイントおおさか たかつきランチ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
5	15	6	2	28名(男性17名・女性11名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	1	11	12	5	11	16	2

LaLa-chocolat TAKATSUKI

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	12	7	3	3	25(男性13名・女性12名)

②障害者手帳等取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			身体障害者手帳						未取得	
等級	A	B	計	2級	3級	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計	申請中
人数	11	13	24	0	2	2	1		2		1		4	0

2. 職員配置 各管理者

(1) 法人事業部

	基準職員数	実配置職員数
正職		6.0
嘱託		2.5
パートタイマー		3.0
計		12.0

(2) 萩の杜

	基準職員数	実配置職員数
正職		20.0
嘱託		4.0
パートタイマー		24.4
計		48.4

(3) ジョブサイトひむろ

	基準職員数	実配置職員数
正職		12.0
嘱託		5.0
パートタイマー		17.8
計	30.9	34.8

(4) グループホームとんだ・レジデンスなさはら2丁目

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.5
嘱託		0.7
パートタイマー		1.8
計	8.12	7.00

(5) レジデンスなさはら

	基準職員数	実配置職員数
正職		10
嘱託		2.6
パートタイマー		4.4
計	12.00	17.15

(6) レジデンスなさはらもとまち

	基準職員数	実配置職員数
正職		9.3
嘱託		0.7
パートタイマー		0.2
計	8.10	10.2

(7) ふれいす Be 通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		13
嘱託		3
パートタイマー		19.2
計	30.7	35.2

(8) ふれいす Be 短期入所

	基準職員数	実配置職員数
正職		1.0
嘱託		1.0
パートタイマー		4.0
計	2	6.0

(9) 地域医療支援部

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		0
パートタイマー		2.5

計		6.5
---	--	-----

(10) あんだんて、wish

	基準職員数	実配置職員数
正職		5
嘱託		0.0
パートタイマー		0.6
計		5.6

(11) アクトおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		1.0
パートタイマー		0.5
計		5.5

(12) ジョブサイトよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		6.8
嘱託		3.0
パートタイマー		6.9
計	15.9	16.7

(13) ジェイ・ブランチよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		1.0
パートタイマー		3.2
計	3.3	7.2

(14) レジデンスよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		6.0
嘱託		2
パートタイマー		2.0
計	7.3	10.0

(15) ジョブジョイントおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0
パートタイマー		3.7
計	4.9	5.7

(16) ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		3.0
パートタイマー		2.6
計	7.6	9.6

(17) LaLa-chocolat TAKATSUKI

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		0
パートタイマー		2.9
計	5.1	6.9

(18) こども発達支援センターwill

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		0.8
パートタイマー		1.2
計	3.0	6.0

(19) こども発達支援センターLink

	基準職員数	実配置職員数
正職		2
嘱託		0
パートタイマー		1.7
計	3.0	3.7

(20) 児童デイサービスセンターan

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		0
パートタイマー		0.6
計	3.0	4.6

(21) 豊中市立児童発達支援センター通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		19.5
嘱託		0
パートタイマー		4.7
計		24.2

3. 採用状況

令和6年4月1日	萩の杜	濱田 聡
令和6年4月1日	萩の杜	総谷 周平
令和6年4月1日	豊中市立児童発達支援センター	園田 夏紀
令和6年4月1日	豊中市立児童発達支援センター	今川 奈津絵
令和6年4月1日	豊中市立児童発達支援センター	岩倉 みち子
令和6年4月1日	豊中市立児童発達支援センター	池本 知可
令和6年4月1日	豊中市立児童発達支援センター	藤本 真衣
令和6年4月1日	萩の杜	平山 那奈
令和6年4月1日	萩の杜	三原 潤也
令和6年4月1日	レジデンスよど三津屋北ホーム	古賀 さくら
令和6年4月1日	レジデンスなさはらもとまち	橋本 珠英
令和6年4月1日	レジデンスなさはらもとまち	高尾 あられ
令和6年4月1日	ジョブサイトひむろ	赤穂 佳叡
令和6年4月1日	ジョブサイトひむろ	村岸 薫子
令和6年4月1日	ぶれいす Be	海部 みのり
令和6年4月1日	ジョブサイトよど	川添 彩花

令和6年5月1日 あんだんて
 令和6年10月1日 訪問看護

真継 いつか
 中井 弥紗央

4. 退職

令和6年4月12日	ジョブサイトひむろ	高岡 愛
令和6年5月21日	ジョブサイトよど	高田 佐和
令和6年6月30日	ジョブサイトひむろ	近藤 晶
令和6年6月30日	豊中市立児童発達支援センター	濱崎 華子
令和7年1月31日	ふれいす Be	埴 薫子
令和7年3月10日	ジョブジョイントおおさかたかつきランチ	江藤 卓子
令和7年3月31日	レジデンスなさはら2丁目	石田 茉優
令和7年3月31日	レジデンスなさはらもとまち	大西 香菜子
令和7年3月31日	豊中市立児童発達支援センター	山本 美穂
令和7年3月31日	ジョブジョイントおおさかたかつきランチ	鈴木 郁美

5. 正職員の主な資格取得状況

資格の名称	人数
社会福祉士	68
保育士	35
介護福祉士	31
公認心理師	18
精神保健福祉士	10
臨床発達心理士	6
看護師	5
臨床心理士	5
作業療法士	3
管理栄養士	1
准看護師	1
日商簿記3級	1
クリーニング師	1

6. 実習受け入れ状況

武庫川女子大学大学院	ジョブジョイントおお さかたかつきランチ	1	4月
関西学院大学大学院 文学研究科総合心理学専攻	豊中市立児童発達支援 センター通所部門	2	5月～9月
大阪保育福祉専門学校	ジョブサイトよど ジェイ・ランチよど	1	6/3～6/22
阿武野高校	ふれいす Be	3	7月
大阪医科薬科大学看護学科	ふれいす Be	8	8月
京都女子大学	地域生活支援部	2	8月, 1月
兵庫教育大学大学院	ジョブジョイントおお さかたかつきランチ	2	8月
大阪保健福祉専門学校	LaLa-chocolat TAKATSUKI	1	9・10月
はるにれの里	ふれいす Be	1	9月
大阪樟蔭女子大学	こども発達支援センタ ーwill	6	10～11月
関西学院大学大学院 文学研究科総合心理学専攻	豊中市立児童発達支援 センター通所部門	2	10月～3月

日本知的障害者福祉協会	ジョブサイトよど ジェイ・ブランチよど 三津屋北ホーム 十三ホーム	1	9/2～9/23 10/17～10/30
のぞみの園	地域生活支援部	2	11月
大阪公立大学	ジョブサイトよど 十三ホーム	2	11/6～11/22
市民後見実習	ふれいす Be	2	12月
二色福祉会	地域生活支援部	2	12月
大谷大学	萩の杜	1	12月9日～12月17日
京都女子大学	ふれいす Be	1	1月
いなば園	地域生活支援部	6	1月
青い鳥	地域生活支援部	2	1月
大阪人間科学大学	ジョブサイトひむろ	2	2月
大阪公立大学	すぎのこ訪問看護ステーション	1	2月
京都女子大学	ジョブサイトよど ジェイ・ブランチよど 十三ホーム	1	2/25～3/11

7. 職員研修・研究会 各管理者

開催月	研修会・研究会の名称
4	感染症対策研修（豊中市との合同研修）
	バリアフリー展
	障害特性（自閉スペクトラム症）
	15分研修
	生活介護のトラブルと支援対応
5	職員研修「特性理解」
	TEACCHの概要と特性理解
	PECS®レベル1ワークショップ
	食中毒予防研修会
	行動援護従業者養成研修
	障害特性（知的障害・ダウン症）
	15分研修
	サービスマナー（初級クラス）
	キャリアパス対応生涯研修課程（初認者編）
	全日本自閉症支援者協会近畿ブロック会議研修会
	応用行動分析
	職員研修「個別支援計画」
	門塾記念講演会
相談支援専門員初任者研修	
6	ジョブコーチの研修（事例検討）
	氷山モデルケースワーク
	虐待防止及び身体拘束適正化研修「権利擁護虐待防止体制の整備について」
	行動援護従業者養成研修
	PECS レベル1ワークショップ
	門塾
	まちごと job's 連続講座 足を停めてみていただける陳列・ブースづくりについて

	とれとれ研修
	15分研修
	スーパーバイザー養成基礎研修
	相談支援従事者初任者研修(2日間課程)
	障がい児者支援の専門性とは
	「放デイ」の現場で巻き起こる「性のトラブルと対処法」(1)
	職員研修「課題分析」
	就労支援実践報告会
	評価キット研修
	令和6年度発達障害者支援センター全国連絡協議会総会及び実務者研修会
7	TEACCHプログラム研究会大阪支部例会 コンサルテーションを活用した人材育成の取り組み
	ダメの伝え方
	9つの重要なコミュニケーションを教える
	まちごと job's 連続講座 アンテナシヨップ交流会
	新人職員研修
	支援計画の立案方法
	15分研修
	行動援護従業者養成研修
	PECS レベル1ワークショップ
	感染症研修及び訓練(ノロウイルス系)
	「放デイ」の現場で巻き起こる「性のトラブルと対処法」(2)
	職員研修「コミュニケーション」
	新澤伸子先生SV研修
	高機能自閉症の人への認知行動療法のワークショップ
	PECS 講習伝達研修
	働き方改革と健康経営研修(うつ病学会市民講座)
	令和6年度発達障害地域支援マネージャー研修会(基礎研修)
8	門塾
	令和6年度支援者対象公開講座
	第9回ダウン症支援セミナー
	15分研修
	PECS レベル1ワークショップ
	SNSトラブルから利用者さんを守るには
	職員研修「構造化」
	日本職業リハビリテーション学会島根大会
	PECS 講習伝達研修
9	豊中市指定障害児支援事業者等集団指導
	TEACCH公認研修(Beyond the Basic)
	門塾
	第1回障がい者福祉支援員向け商品パワーアッププロジェクト
	第2回障がい者福祉支援員向け商品パワーアッププロジェクト
	強度行動障害支援者養成研修基礎研修
	地域での医療連携について、健康状態の観察ポイント、理学療法士の先生から介助方法について
	15分研修
	スーパーバイザー養成実践研修
	TEACCHファンダメンタルトレーニング
	淀川区自立支援協議会事例発表会

	改めて考える権利擁護と虐待
	職員研修「訪問看護合同研修」
	新澤伸子先生 SV 研修
	will/Link との合同研修
	第 11 回成人発達障害支援学会 大阪大会
	KH Coder 公式セミナー リサーチ実践編
	発達障害当事者フォーラム 2024in 東京
10	門 眞一郎先生 SV (PECS®実践発表)
	第 3 回障がい者福祉支援員向け商品パワーアッププロジェクト
	施設における感染症予防について
	構造化
	とれとれ研修
	15 分研修
	強度行動障がい支援者養成研修 (基礎)
	サービス管理責任者等基礎研修
	障がい者虐待簿うち権利擁護研修
	ハラスメント研修
	生活介護のトラブルと支援対応 (1)
	職員研修「個別的支援」
	ペアレントトレーニング研修
	施設におけるか感染症予防について
	R6 年度大阪府相談支援従事者初任者研修
	R6 年度大阪府サービス管理責任者等 基礎研修
	発達障害 300 分間 Q&A～現場の疑問について一緒に考えましょう～
	ペアレント・メンターの活用による発達障害児者と家族への支援の充実
	日本発達障害学会第 59 回研究大会
11	ESDM アドバンスワークショップ
	TEACCH プログラム研究会大阪支部例会 支部実践報告会
	5 法人ジョイントセミナー
	強度行動障害支援者養成研修実践研修
	自閉症カンファレンス
	新人フォローアップ接遇研修
	コミュニケーション
	15 分研修
	生活介護のトラブルと支援対応 (2)
	感染症研修及び訓練 (インフルエンザ系)
	職員研修「問題行動」
	新澤先生 SV 研修
	ジョブコーチ養成研修 (大阪)
	冰山モデルとケースワーク
	認知症について
	令和 6 年度発達障害者地域支援マネジャー研修会 (応用研修)
12	大阪府立寝屋川支援学校との実践交流会
	アセスメントセミナー
	門塾
	行動援護従業者養成研修
	アセスメント
	15 分研修
	トーキングマット基礎研修

	TEACH (1)
	職員研修「般化と柔軟性」
	評価キット実践研修
	エルフェスタ
	令和6年度 発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会
1	看護師による研修「アレルギー対応について」
	STによる研修「口腔発達について」
	行動援護従業者養成研修
	チーム支援
	とれとれ研修
	15分研修
	TEACH (2)
	職員研修「家族支援」
	新澤先生SV研修
	ジョブコーチ地域交流会議
	JC養成研修実施機関合同フォローアップ研修
	職場適応援助者支援スキル向上研修
	BCP(災害)研修
	知的障害・発達障害児とその家族のQOLを維持する支援体制整備に向けた研究 オンライン研修会
	国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター令和6年度 第2回支援者向けセミナー
2	TEACCH コラボレーションセミナー2025
	TEACCH プログラム研究会大阪支部例会 幼児期の支援について～「場面別 気 になる子の保育サポートアイデア BOOK」より～
	令和6年度大阪府サービス管理責任者等更新研修
	意思決定支援 基礎・実践
	15分研修
	サービス管理責任者等実践研修
	アセスメントの手引き ～生物・心理・社会モデルで考える～ (1)
	職員研修「訪問看護合同研修」
	職員研修「アクトおおさか合同研修」
	エンカレッジ実践報告会
	will/Link との合同研修
	ひょうご発達障害者支援センター開設20周年記念講演
	TEACCH コラボレーションセミナー2025
3	てんかんと薬
	15分研修
	全日本自閉症支援者協会近畿ブロック会議研修会
	アセスメントの手引き ～生物・心理・社会モデルで考える～ (2)
	職員研修「発達検査 PEP」
	CEF2025
	TEACCH 公式トレーニング (Fundamentals of Structured Teaching)
	大阪府・大阪市<令和6年度>依存症理解啓発府民セミナー
	令和6年度 依存症相談対応・実践研修 (A-2)

派遣受講研修

事業所	派遣研修回数 (実研修)
なさはら	45 研修
will	21 研修

Link	3 研修
アクトおおさ か	24 研修

視察

視察先
東大阪市立はばたき園 6名
高槻市立療育園 6名
一般社団法人ゆこり 3名
NPO 法人岡山自閉症児を育てる会 4名
社会福祉法人伊達コスモス 21 14名
社会福祉法人侑愛会 10名
社会福祉法人南高愛隣会 3名
社福) ライフサポート協会 じらふ長居
おかやま発達障害者支援センター 2名